

鳥取県米子市

ひやくつか 88 ごう ふん ・ ひやくつか だい 7 い せき
百塚88号墳・百塚第7遺跡

2022. 3

一般財団法人 米子市文化財団

鳥取県米子市

ひやく つか 88 ごう ふん ・ ひやく つか だい 7 い せき
百塚88号墳・百塚第7遺跡

2022. 3

一般財団法人 米子市文化財団

例 言

1. 本報告書は、鳥取県が計画する鳥取県環境管理事業センター産業廃棄物管理型最終処分場建設工事に伴い、令和2年度に米子市淀江町小波地内で実施した埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、公益財団法人鳥取県環境管理事業センターの委託を受けて、一般財団法人米子市文化財団が実施した。
3. 本報告書における方位は真北を示し、表記した座標値は世界測地系第V系の座標値である。またレベルは海拔標高を示す。
4. 本報告書第2図の地図は、国土地理院発行の5万分の1地形図「米子」(平成17年1月1日発行)を加筆・修正して使用した。
5. 調査の実施に当たって、基準点測量と調査前後の地形測量をフジテクノに、空中写真撮影をミテックに、出土金属製品の保存処理を元興寺文化財研究所にそれぞれ委託した。
6. 写真図版48～50に掲載した百塚88号墳のオルソ画像は、合名会社アパラティスの山船見太郎氏が作成したものである。
7. 本報告書は、(一財)米子市文化財埋蔵文化財調査室が執筆、編集した。
8. 発掘調査によって作成された図面、写真類及び出土遺物は米子市教育委員会によって保管されている。
9. 現地調査及び報告書の作成には、多くの方々からご指導、ご支援を頂いた。明記して感謝いたします。(敬称略)

岩崎孝平、君嶋俊行、高尾浩司、高田健一、水村直人、山船見太郎、山船茂樹、とっとり弥生の王国推進課、鳥取県文化財課、鳥取県埋蔵文化財センター、米子市文化振興課

凡 例

1. 発掘調査時に使用した遺構名及び遺構番号は、報告書作成時に変更している。
2. 遺跡の略称は「HKT」と記載した。
3. 本報告書における遺物番号は次のように記す。
Po：土器・土製品 S：石製品 M：金属製品
4. 本文中、挿図中及び写真図版の遺構・遺物番号は一致する。
5. 遺物実測図のうち、須恵器は断面黒塗り、それ以外は断面白抜きで表示した。
6. 遺物実測図の縮尺は、土器・土製品が1分の1、3分の1。石製品が1分の1。金属製品が1分の1、3分の1である。

新旧遺構名一覧表

新遺構名	旧遺構名
第1主体部	2号石室
第2主体部	1号石室
第3主体部	SX12
土器集中1	SX6
土壌1	SK13
溝1	SD8
石棺墓1	SX9
陥穴1	SK10
陥穴2	SP11
陥穴3	SK20
陥穴4	SK1
陥穴5	SK18
陥穴6	SK15
陥穴7	SK3
陥穴8	SK19
竪穴建物1	SI14
テラス状遺構1	SI16
掘立柱建物1	SI17

目 次

例言、凡例、新旧遺構名一覧表

目次

挿図一覧

写真図版一覧

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	1
第3節 整理作業の経過	1
第4節 調査体制	2

第2章 百塚遺跡群の歴史的環境

第1節 百塚遺跡群の歴史的環境	3
-----------------	---

第3章 百塚88号墳・百塚第7遺跡の調査

第1節 調査区の概要と層位	9
第2節 百塚88号墳の調査	9
第3節 百塚第7遺跡の調査	42

第4章 総括

第1節 墳丘の構築方法・埋葬施設・土器集中の評価・出土遺物	52
-------------------------------	----

写真図版

報告書抄録・要約・奥付

挿図一覽

- 第1図 遺跡位置図
- 第2図 調査区割図
- 第3図 周辺遺跡図
- 第4図 百塚遺跡群全体図
- 第5図 調査前測量図
- 第6図 調査後測量図（古墳時代）
- 第7図 百塚88号墳墳丘断面図①
- 第8図 百塚88号墳墳丘断面図②
- 第9図 第1主体部 遺構図
- 第10図 第1主体部 遺物図
- 第11図 第2主体部 遺構図
- 第12図 第2主体部 断面図
- 第13図 第3主体部 遺構図①
- 第14図 第3主体部 遺構図②・遺物図
- 第15図 土器集中1 遺構図
- 第16図 土器集中1 出土遺物図①
- 第17図 土器集中1 出土遺物図②
- 第18図 土器集中1 出土遺物図③
- 第19図 土器集中1 出土遺物図④
- 第20図 土器集中1 出土遺物図⑤
- 第21図 土器集中1 出土遺物図⑥
- 第22図 土器集中1 出土遺物図⑦
- 第23図 土器集中1 出土遺物図⑧
- 第24図 土器集中1 出土遺物図⑨
- 第25図 土器集中1 出土遺物図⑩
- 第26図 土器集中1 出土遺物図⑪
- 第27図 土器集中1 出土遺物図⑫
- 第28図 土器集中1 出土遺物図⑬
- 第29図 土器集中1・第3主体部 出土遺物図⑭
- 第30図 土器集中1・周溝内 出土遺物図⑮
- 第31図 土壇1 遺構図
- 第32図 溝1 遺構図
- 第33図 石棺墓1 遺構図
- 第34図 調査後測量図（古墳時代以前）
- 第35図 陥穴1～4 遺構図

- 第36図 陥穴5～8 遺構図
- 第37図 竪穴建物1 遺構図
- 第38図 竪穴建物1 遺構・遺物図
- 第39図 テラス状遺構1 遺構図①
- 第40図 テラス状遺構1 遺構図②
- 第41図 掘立柱建物1 遺構図
- 第42図 遺構に伴わない遺物図
- 第43図 百塚88号墳 墳丘プラン図

写真図版一覧

写真図版1

- 1. 百塚88号墳調査前遠景（南西より）
- 2. 百塚88号墳調査前全景（上空より）

写真図版2

- 1. 百塚88号墳調査後全景（上空より）

写真図版3

- 1. 百塚88号墳調査後遠景（北西より）
- 2. 百塚88号墳調査後遠景（南西より）

写真図版4

- 1. 第1主体部、土器集中1（北西より）
- 2. 第1主体部、土器集中1（上空より）
- 3. 第1主体部検出（南東より）

写真図版5

- 1. 第1主体部北側断面（北東より）
- 2. 第1主体部中央断面（南西より）
- 3. 第1主体部南側断面（南西より）

写真図版6

- 1. 第1主体部完掘（北東より）
- 2. 第1主体部完掘（南より）

写真図版7

- 1. 第1主体部南西側側石（北東より）
- 2. 第1主体部北西側小口石（南東より）
- 3. 第1主体部北東側側石（南西より）

写真図版8

- 1. 第1主体部南東側小口部（西より）
- 2. 第1主体部北西側裏込（西より）
- 3. 第1主体部北西側裏込（北西より）

写真図版9

1. 第2主体部検出（西より）
2. 第2主体部東西断面（南より）
3. 第2主体部調査風景（東より）

写真図版10

1. 第2主体部框石検出（西より）
2. 第2主体部玄門部完掘（西より）
3. 第2主体部框石（西より）

写真図版11

1. 第2主体部北側側石（南より）
2. 第2主体部南側側石（北より）
3. 第2主体部北側玄門組み合わせ部（南より）

写真図版12

1. 第2主体部南側玄門組み合わせ部（西より）
2. 第2主体部玄室床面礫（西より）
3. 第2主体部羨道部断割（西より）

写真図版13

1. 第2主体部奥壁裏込（南より）
2. 第2主体部北側側石裏込（西より）
3. 第2主体部北側側石裏側の加工痕（北より）

写真図版14

1. 第2主体部北側側石裏込除去（西より）
2. 第2主体部玄室床断割（北より）
3. 第2主体部奥壁除去（西より）

写真図版15

1. 第3主体部蓋石検出（西より）
2. 第3主体部勾玉（S.1）出土状況（西より）
3. 第3主体部蓋石除去（西より）

写真図版16

1. 第3主体部完掘（北西より）
2. 第3主体部完掘（南西より）
3. 第3主体部断割（北西より）

写真図版17

1. 土壙1断面（東より）
2. 土壙1完掘（東より）
3. 土器集中1検出状況（北東より）

写真図版18

1. 土器集中1出土状況（北西より）

2. 土器集中1 勾玉 (S. 2) 出土状況 (南東より)
3. 土器集中1 鉄製品 (M. 3、M. 4) 出土状況 (北西より)

写真図版19

1. 土器集中1 下層完掘 (西より)
2. 百塚88号墳後円部西側墳丘断面 (南東より)
3. 百塚88号墳後円部土のう痕跡検出 (南より)

写真図版20

1. 百塚88号墳後円部土のう痕 (南より)
2. 百塚88号墳後円部南側墳丘断面 (南西より)
3. 百塚88号墳後円部南側墳丘断面 (西より)

写真図版21

1. 百塚88号墳後円部南側墳丘土のう部分 (西より)
2. 百塚88号墳後円部東側墳丘断面 (南より)
3. 百塚88号墳後円部東側墳丘土のう部分 (南東より)

写真図版22

1. 百塚88号墳前方部南側墳丘断面 (北東より)
2. 百塚88号墳前方部北側墳丘断面 (東より)
3. 第2主体部下層墳丘断面 (西より)

写真図版23

1. 百塚88号墳前方部北側墳丘断面 (西より)
2. 百塚88号墳前方部北側墳丘断面 (西より)
3. 百塚88号墳前方部東側墳丘断面 (北より)

写真図版24

1. 百塚88号墳後円部南側周溝断面 (南西より)
2. 百塚88号墳前方部東側周溝断面 (南東より)
3. 百塚88号墳前方部北側周溝断面 (南西より)

写真図版25

1. 溝1 検出 (南東より)
2. 溝1 完掘 (北西より)
3. 溝1 完掘 (北東より)

写真図版26

1. 石棺墓1 検出 (西より)
2. 石棺墓1 完掘 (西より)
3. 石棺墓1 完掘 (南東より)

写真図版27

1. 石棺墓1 掘形完掘 (南東より)
2. 竪穴建物1 とテラス状遺構1 の切り合い (南東より)
3. 竪穴建物1 断面 (東より)

写真図版28

1. 竪穴建物1完掘（東より）
2. テラス状遺構1完掘（西より）
3. テラス状遺構1、中央ピット完掘（北西より）

写真図版29

1. 掘立柱建物1完掘（北西より）
2. 陥穴1完掘（北西より）
3. 陥穴2底面ピット完掘（西より）

写真図版30

1. 陥穴3完掘（西より）
2. 陥穴4断面（北より）
3. 陥穴4完掘（東より）

写真図版31

1. 陥穴4底面ピット（東より）
2. 陥穴5断面（西より）
3. 陥穴5完掘（西より）

写真図版32

1. 陥穴6完掘（北より）
2. 陥穴7断面（西より）
3. 陥穴7完掘（西より）

写真図版33

1. 第2・第3主体部出土遺物
2. 土器集中1出土遺物

写真図版34

1. 土器集中1出土遺物

写真図版35

1. 土器集中1出土遺物

写真図版36

1. 土器集中1出土遺物

写真図版37

1. 土器集中1出土遺物

写真図版38

1. 土器集中1出土遺物

写真図版39

1. 土器集中1出土遺物

写真図版40

1. 土器集中1出土遺物

写真図版41

1. 土器集中1出土遺物

写真図版42

1. 土器集中1出土遺物

写真図版43

1. 土器集中1出土遺物

写真図版44

1. 土器集中1出土遺物

写真図版45

1. 土器集中1出土遺物

写真図版46

1. 土器集中1・第3主体部出土遺物

写真図版47

1. 周溝内出土遺物
2. 竪穴建物1出土遺物
3. 遺構外出土遺物

写真図版48

1. 第1主体部オルソ画像

写真図版49

1. 第2主体部オルソ画像

写真図版50

1. 百塚88号墳墳丘オルソ画像

第1章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査に至る経緯

本調査は、鳥取県米子市淀江町小波において計画された鳥取県環境管理事業センター産業廃棄物管理型最終処分場建設工事に伴い、工事予定地内に所在する埋蔵文化財について実施した発掘調査である。

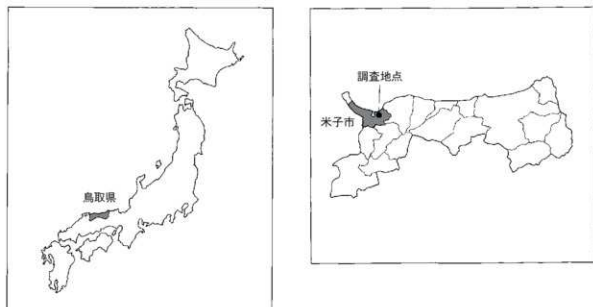
発掘調査の実施については、米子市教育委員会より令和2年3月26日付けで埋蔵文化財発掘調査の依頼を受け、令和2年3月27日付けで米子市文化財財団から米子市教育委員会へ回答した。発掘調査の届出については、令和2年3月27日付けで文化財保護法第92条の第1項に基づく届出を鳥取県知事宛てに提出した。発掘調査の契約については、令和2年4月1日に公益財団法人鳥取県環境管理事業センターと一般財団法人米子市文化財団との間で契約を締結した。

第2節 発掘調査の経過

発掘調査は、令和2年6月24日から令和2年11月30日までの期間で現地調査を行った。調査対象面積は、1,374㎡である。調査中には、9月30日に米子市文化財保護審議会委員による現地指導を受けたほか、9月19日には一般市民を対象とした現地説明会を開催した。

第3節 整理作業の経過

出土遺物の整理作業は、令和2年度には現地説明会で展示する遺物のみを行い、本格的な作業は令和3年度に実施した。作業内容は、出土遺物の洗浄、注記、接合、実測の他にも、遺構図面のトレース、遺物の写真撮影などを行い、年度末までに報告書を刊行した。



第1図 遺跡位置図

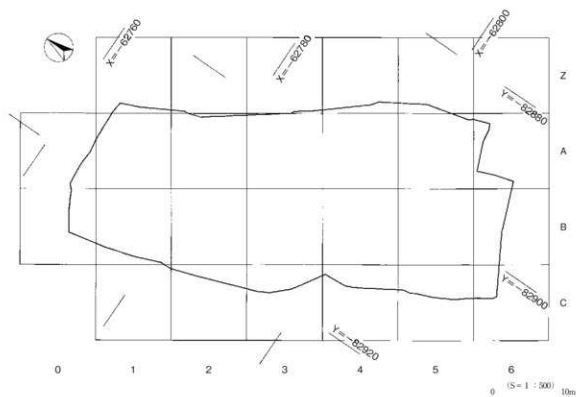
第4節 調査体制

令和2年度（2020年度）

事業主体 一般財団法人米子市文化財団
理事長 杉原弘一郎
常務理事 先瀬達也（一般財団法人米子市文化財団事務局長）
埋蔵文化財調査室
室長兼調査員 小原貴樹
主事 田中昌子
事業担当 統括調査員 高橋浩樹

令和3年度（2021年度）

事業主体 一般財団法人米子市文化財団
理事長 杉原弘一郎
常務理事 先瀬達也（一般財団法人米子市文化財団事務局長）
埋蔵文化財調査室
室長兼調査員 小原貴樹
主事補佐 田中昌子
事業担当 統括調査員 高橋浩樹



第2図 調査区割図

第2章 百塚遺跡群の歴史的環境

第1節 百塚遺跡群の歴史的環境

百塚遺跡群は、米子市淀江町小波に所在する縄文時代から中世の複合遺跡であり、その範囲には124基の古墳群が形成されている。

百塚遺跡群は、大山の北西部、宇田川平野の南西、佐陀川水系によって大山西麓に形成された扇状地、標高30m～50mの丘陵上と丘陵斜面に位置しており、壺瓶山から米子市尾高にかけての範囲に南北に伸びる百塚原と呼ばれる丘陵地帯にある。遺跡の種類は、集落と古墳群が混在しており、集落遺跡は第1遺跡から第8遺跡まであり、同一の丘陵と谷部にも小波泉原遺跡、平岡上向山遺跡などが分布している。百塚原一帯は、明治35年頃から大正時代にかけて盛んに盗掘が行われた地域であり、現在山陰歴史館が所蔵している伝岡成出土の轡が出土したのがこの百塚古墳群と考えられている。また、佐々木謙によれば、逢坂の素封家、橋井半雲の旧蔵資料であった小型鏡も百塚古墳群から出ていた可能性が示唆されている（文献3）。

この百塚古墳群で発掘記録が残されているのが、昭和35年に百塚55号墳の石棺が開壜中に発見され、一つの石棺内から4体分もの人骨が検出された事例が初めてである（文献1）。その後、昭和38年に刊行された『鳥取県埋蔵文化財包蔵地地名表』では、75基の古墳が確認されており、昭和48年の『改訂鳥取県遺跡地図第1分冊』では、更に増加して102基の古墳が登録されている。

昭和49年には遠藤忠を調査主任とする三輪地区のは場整備に伴う調査が行われ、古墳時代の堅穴建物20棟、掘立柱建物1棟、溝状遺構などが検出されたが、途中で事業が中止となった。その後、は場整備に伴う調査が継続して行われたほか、資材置き場や産業廃棄物処分場建設、国道9号バイパスの建設工事に伴う調査などが行われており、古墳時代後期を中心とする集落と古墳群の様相が明らかになっている。

弥生時代以前の様相

百塚遺跡群では、旧石器時代にまで遡る資料は確認されていないが、泉中峰遺跡と原畑遺跡においてナイフ形石器が確認されている。いずれも単独での出土であるが、当時の生活範囲の一端を知ることができる。

縄文時代には、百塚遺跡群においても陥穴が200基ほど確認されており、古くから狩猟の場として利用されていたことが判明している。縄文時代の集落は、百塚遺跡群から南へ4kmほど離れた地点に早期の大規模集落である上福万遺跡(46)があるほか、淀江平野の潟湖南岸部には、鮎ヶ口遺跡(95)、河原田遺跡(96)など、水辺の集落が点在していることから、百塚原一帯がこれら縄文時代集落の狩場であったものと見られる。

縄文時代の建物は、百塚第7遺跡において、後期後葉のものと考えられる堅穴建物が1棟のみ確認されている。この建物は、一辺が4.2m×3.6m以上の隅丸方形のもので、床面に掘り込まれた地床炉が設けられている。この他には、泉前田遺跡(52)において円形の堅穴建物が見つかったほか、大山西麓に位置する岡成9遺跡と喜多原第4遺跡において、平地式住居が確認されている。



第3図 周辺遺跡図

- | | | | |
|-------------|-------------|---------------|----------------|
| 1 錦町第1遺跡 | 31 坂中庵寺跡 | 61 茶畑山道遺跡 | 91 城山古墳群 |
| 2 久米第1遺跡 | 32 大寺庵寺跡 | 62 茶畑第1遺跡 | 92 四十九谷横穴墓群 |
| 3 米子城跡 | 33 長者原古墳群 | 63 押平尾無遺跡 | 93 稲吉角田遺跡 |
| 4 長砂第1・2遺跡 | 34 坂中第5遺跡 | 64 古御堂笹尾山遺跡 | 94 中西尾古墳群 |
| 5 長砂第3遺跡 | 35 岸本大成遺跡 | 65 古御堂新林遺跡 | 95 榎ヶ口遺跡 |
| 6 水道山古墳 | 36 岸本古墳群 | 66 茶畑第2遺跡 | 96 河原田遺跡 |
| 7 池ノ内遺跡 | 37 岸本遺跡 | 67 東高田遺跡 | 97 福頼遺跡 |
| 8 目久美遺跡 | 38 岸本要害跡 | 68 上野遺跡群 | 98 壺瓶山古墳群 |
| 9 除田遺跡群 | 39 岸本下の原遺跡 | 69 国信遺跡 | 99 大下畑遺跡 |
| 10 奥除田遺跡群 | 40 久吉第3遺跡 | 70 唐王遺跡 | 100 小波原畑遺跡 |
| 11 新山遺跡群 | 41 貝田原遺跡 | 71 清原遺跡 | 101 妻木晩田遺跡 |
| 12 古市遺跡群 | 42 久吉北田山遺跡 | 72 新田原遺跡 | 102 中間古墳群 |
| 13 吉谷遺跡群 | 43 番原遺跡群 | 73 大道原遺跡 | 103 尾高古墳群 |
| 14 橋本遺跡群 | 44 須村遺跡 | 74 原畑遺跡 | 104 百塚遺跡・百塚古墳群 |
| 15 福成石佛前遺跡 | 45 石州府古墳群 | 75 塚田遺跡 | 105 百塚88号墳 |
| 16 福成早里遺跡 | 46 上福万遺跡 | 76 妻木法大神遺跡 | |
| 17 東京宗像古墳群 | 47 日下寺山遺跡 | 77 徳楽方墳 | |
| 18 日原古墳群 | 48 日下古墳群 | 78 源平山古墳群 | |
| 19 奈喜良遺跡 | 49 尾高浅山遺跡 | 79 平古墳群 | |
| 20 福市遺跡 | 50 尾高城跡 | 80 富岡彦岩洞遺跡 | |
| 21 青木遺跡 | 51 尾高御登山遺跡 | 81 今津岸ノ上遺跡 | |
| 22 樋ノ口第4遺跡 | 52 泉中峰・前田遺跡 | 82 晩田遺跡 | |
| 23 深瀨西山ノ後遺跡 | 53 井手袂遺跡 | 83 下楚利遺跡・宮廻遺跡 | |
| 24 別所新田遺跡 | 54 今在家下井上遺跡 | 84 福岡遺跡 | |
| 25 諸木遺跡 | 55 坂長第7遺跡 | 85 井手跨遺跡 | |
| 26 後塔山古墳 | 56 坂長第8遺跡 | 86 瓶山古墳群 | |
| 27 荒神上遺跡 | 57 坂長下門前遺跡 | 87 向山古墳群 | |
| 28 長者屋敷遺跡 | 58 大腕風谷遺跡 | 88 上座庵寺跡 | |
| 29 坂長下屋敷遺跡 | 59 大塚岩田遺跡 | 89 彼岸田遺跡 | |
| 30 坂長村上遺跡 | 60 大塚塚根遺跡 | 90 小枝山古墳群 | |

集落の様相

百塚遺跡群に展開する集落については、弥生時代中期後半から営まれているが、古墳時代後期には集落規模が拡大し、7世紀初頭まで存続する。同時代の集落では、妻木晩田遺跡でも弥生時代中期後半から集落形成が始まるが、古墳時代前期後半には集落活動が停止することから、周辺の大規模集落とは継続性において違いが認められる。

百塚遺跡群では、竪穴建物が300棟以上、掘立柱建物も150棟ほど確認されており、建物の形態も様々なものが見ついている。顕著な事例として百塚第1遺跡の35号住居跡がある、これは平面多角形の竪穴建物で、内部は焼失しており、4世紀前葉頃の土器が大量に出土している。その中には、九州の糸島地方の福井式と見られる大型の甕が含まれていた(文献18)。また、6世紀初頭頃と推測されている百塚第1遺跡の17号住居跡からは、碧玉や水晶の玉未製品、石英製のハンマーなど玉作に関する資料が得られている(文献18)。

掘立柱建物は、古墳時代に時期が特定できるものでも20棟ほどあり、第7遺跡の30号建物跡が梁行3間の棟持柱建物で、6世紀後半のものとして推測されている(文献12)。また、百塚第3遺跡の東側丘陵斜面に位置する平岡上山遺跡からは、掘立柱建物の柱穴内から、てづくね土器の中に滑石製の小玉の未製品が出土している。建物を建てる際の地鎮に関する遺構と推測されている(文献22)。貯蔵穴は、古墳時代のものは少ないが、百塚第一遺跡の5号土坑から一括性の高い土器資料が得られている(文献18)。

古墳群と遺物

百塚古墳群は100基を超える古墳群であるが、現状では削平されて旧状を留めていないものが多い。また、古墳番号の重複などもあるため、正確な数を把握するのは難しくなっている。しかしながら、墳丘が削平されたものでも周溝が遺存している事例が多いため、古墳の規模や平面形態は推測しやすい。

周辺の古墳群では、淀江平野において向山古墳群を中心とするグループがあり、小枝山古墳群、妻木晩田古墳群などが分布している。日野川右岸の丘陵部では、仲間古墳群(78基)、日下古墳群(73基)、石州府古墳群(113基)などがあり、古墳時代前期から終末期までの資料が確認されている。前方後円墳は、南部町の三崎殿山古墳(全長108m)を筆頭に、米子市内と南部町、伯耆町において100基ほど確認されている。

百塚古墳群の築造年代は、古墳時代中期後半から終末期と推測されている。古墳の規模は、直径10m～16m程度の円墳が多く、帆立貝式にブリッジを持つものがある。前方後円墳は、88号墳(全長28m)と94号墳(全長33.5m)の2基しか確認されていない。方墳も少なく、数基程度しか見られない。円筒埴輪は、26号墳と50号墳で見ついているのみであり、百塚古墳群での使用例は少ない。埋葬施設の多くは盗掘されているが、小規模な古墳の埋葬施設は箱式石棺が大半を占めると推測されている。

副葬品については、玉類や金環、鉄製品があり、馬具は49号墳の周溝内から鏡板が見ついている。その他の特殊な遺物では、26号墳から出土した鉄製の籠手、90号墳の周溝内から出土した須恵器子持壺などが目を引くが、百塚古墳群は中心部の埋葬施設が盗掘、破壊されているものが多いため、出土した遺物は全体数量のごく一部と考えられる。



第4図 百塚遺跡群全体図

百塚遺跡群の調査歴

遺跡名	刊行年	報告書名	面積(m ²)	検出遺構
百塚古墳群・百塚第6遺跡	1988年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第11集 「百塚遺跡群・壱塚山遺跡群発掘調査概報」		トレンチ 竪穴建物3棟、ピット群
百塚第1遺跡	1988年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第12集 「百塚第1遺跡発掘調査報告書」	500m ²	竪穴建物13棟、掘立柱建物1棟、溝2、ピット群
百津53・105・106・107号墳 百塚第1遺跡	1989年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第15集 「百塚53・105・106・107号墳・百塚第1遺跡・原田遺跡発掘調査報告書」	3,500m ²	古墳周溝、竪穴建物13棟、貯蔵穴2基
百塚第1遺跡	1989年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第16集 「百塚第1遺跡」	2,000m ²	竪穴建物19棟、土壇、ピット群
百塚古墳群・百塚第4遺跡(1区)	1992年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第24集 「百塚古墳群発掘調査報告書1」	15,000m ²	落し穴22基、竪穴建物24棟、竪穴状遺構6基、掘立柱建物17棟、溝5条、土坑1基
百塚第4遺跡1区、2区・第6遺跡・第8遺跡	1993年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第28集 「百塚遺跡群Ⅱ鳥取県宮小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書」	20,000m ²	落し穴64基、竪穴建物14棟、貯蔵穴8基、埋葬施設3基、溝2条、古墳2基、埋葬施設1基
小波林ノ奥遺跡・小波泉原遺跡	1993年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第33集 「百塚遺跡群Ⅲ小波林ノ奥遺跡発掘調査報告書」	3,000m ²	落し穴15基、竪穴手物2棟、段状遺構4基、溝、土壇、横穴(泉原遺跡)
百塚第7遺跡(1・2区) 百塚第7遺跡(4～7区)	1995年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第36集 「百塚遺跡群Ⅳ鳥取県宮小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書」	52,000m ²	落し穴153基、竪穴建物36棟、掘立柱建物94棟、櫓7列、貯蔵穴9基、木棺墓1基、土坑56基、古墳、溝
百塚第7遺跡(3区)	1996年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第38集 「百塚遺跡群Ⅴ百塚第7遺跡3区発掘調査報告書」	3,850m ²	落し穴15基、竪穴建物9棟、掘立柱建物15棟、土坑5基、土壇墓2基、木棺墓1基、溝2条、段状遺構1基
百塚古墳群 百塚第7遺跡(4区)	1996年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第40集 「百塚遺跡群Ⅵ鳥取県宮小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書」	24,800m ²	落し穴12基、竪穴建物3棟、竪穴状遺構3基、掘立柱建物13棟、貯蔵穴7基、土坑5基、古墳44基、埋葬施設12基、溝4条
百塚第2遺跡 百塚古墳群	1997年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第43集 「百塚遺跡群Ⅶ鳥取県宮小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書」	12,640m ²	落し穴29基、竪穴建物51棟、竪穴状遺構3基、掘立柱建物62棟、古墳10基
百塚第1・7遺跡・百塚古墳群	1999年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第46集 「百塚遺跡群Ⅷ百塚第1・7遺跡・百塚古墳群発掘調査報告書」	8,692m ²	貯蔵穴、土坑、竪穴建物30棟、掘立柱建物22棟
			4,850m ²	土坑1、竪穴建物13棟、掘立柱建物、段状遺構、櫓、溝
			2,810m ²	古墳10基、土壇墓9基
百塚第7遺跡(10区)	2002年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第54集 「百塚遺跡群Ⅸ百塚第7遺跡10区発掘調査報告書」	2,234m ²	竪穴建物4棟、段状遺構3基、掘立柱建物23棟、櫓1列、土坑2基、溝1条
百塚第1遺跡	2004年	淀江町埋蔵文化財調査報告書第58集 「百塚遺跡群Ⅹ丸福石油麻資材置場造成に伴う発掘調査報告書」	2,200m ²	落し穴9基、竪穴建物10棟、掘立柱建物1棟、貯蔵穴16基、溝8条
百塚第5遺跡 泉上経前遺跡	1995年	鳥取県教育文化財団調査報告書37 「鳥取県西伯郡淀江町百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・鳥取県米子市泉上経前遺跡」	10,689m ²	落し穴66基、竪穴建物62棟、掘立柱建物5棟、溝1条
			613m ²	落し穴3基、竪穴建物3棟
百塚第7遺跡	1995年	鳥取県教育文化財団調査報告書38 「鳥取県西伯郡淀江町百塚第7遺跡(8区)」	6,018m ²	竪穴建物7棟、掘立柱建物5棟、溝3条
小波泉原遺跡	2007年	米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書53 「小波泉原遺跡」	164m ²	竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟、櫓4列
淀江町平岡上山遺跡	2010年	米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書61 「淀江町平岡上山遺跡」	600m ²	竪穴建物1棟、掘立柱建物1棟

参考文献

- 1 佐々木謙1960年「百塚55号墳」『ひすい71号』佐々木古代文化研究室
- 2 大村俊夫ほか1963年『鳥取県埋蔵文化財包蔵地地名表』昭和38年鳥取県教育委員会
- 3 佐々木謙1972年『鳥取県史第1巻』鳥取県
- 4 鳥取県教育委員会1973年『改訂鳥取県遺跡地図第1分冊』鳥取県教育委員会
- 5 中山和之ほか1988年『百塚遺跡群・壺瓶山遺跡群発掘調査概報』淀江町教育委員会
- 6 中山和之ほか1988年『百塚第1遺跡発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 7 中山和之1989年『百塚53・105・106・107号墳・百塚第1遺跡・原田遺跡発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 8 中山和之1989年『百塚第1遺跡』淀江町教育委員会
- 9 中山和之1992年『百塚古墳群発掘調査報告書Ⅰ』淀江町教育委員会
- 10 岩田文章1993年『百塚遺跡群Ⅱ鳥取県営小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 11 岩田文章ほか1993年『百塚遺跡群Ⅲ 小波林ノ奥遺跡発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 12 岩田文章ほか1995年『百塚遺跡群Ⅳ鳥取県営小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 13 原田雅弘ほか1995年『鳥取県西伯郡淀江町百塚第5遺跡・小波狭間谷遺跡・鳥取県米子市泉上経前遺跡』鳥取県教育文化財団
- 14 仲田信一ほか1995年『鳥取県西伯郡淀江町百塚第7遺跡（8区）』鳥取県教育文化財団
- 15 岩田文章ほか1996年『百塚遺跡群Ⅴ百塚第7遺跡3区発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 16 岩田文章ほか1996年『百塚遺跡群Ⅵ鳥取県営小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 17 岩田文章ほか1997年『百塚遺跡群Ⅶ鳥取県営小波地区ほ場整備に伴う発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 18 岩田文章ほか1999年『百塚遺跡群Ⅷ百塚第1・7遺跡・百塚古墳群発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 19 岩田文章ほか2002年『百塚遺跡群Ⅸ百塚第7遺跡10区発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 20 岩田文章2004年『百塚遺跡群Ⅹ丸福石油貯蔵材置場造成に伴う発掘調査報告書』淀江町教育委員会
- 21 平木裕子2007年『小波泉原遺跡』米子市教育文化事業団
- 22 平木裕子2010年『淀江町平岡上向山遺跡』米子市教育文化事業団
- 23 下高瑞哉2010年『米子市内遺跡発掘調査報告書』米子市教育委員会

第3章 百塚88号墳・百塚第7遺跡の調査

第1節 調査区の概要と層位

今回発掘調査を実施した地点は、大山（標高1,729m）から壺瓶山（標高113.7m）に向かって伸びる火山性台地上、標高38～43m付近に位置している。調査地周辺では、ほ場整備や道路建設などによって景観が様変わりしているが、かつては開析が進んだ深い谷と細長い丘陵地が入り組む地形であり、丘陵部には森林が広がっていたと考えられる。

調査前の現地は、鬱蒼とした竹林となっており、古墳から抜き取ってきた石材と思われるような大きな石が点在している状況であった。

調査区の区割りは、方位を無視して百塚88号墳の主軸ラインを基準に、一辺10mのメッシュを26区画設定し、遺物の取り上げなどに活用した（第2図）。

表土剥ぎと遺構掘削作業は総て人力で行い、排出した土砂は一輪車で仮置場へ運搬した後、重機を用いて調査区外へ搬出した。また、調査区内全域に竹が繁茂していたことから、竹の地下茎を除去するのに苦労した。

遺構の測量は、調査前と調査後の測量をフジテクノ㈱に委託したほかは、トータルステーションとオートレベルを用いて調査員が作図した。また、株式会社CUBICの遺構実測支援システムを用いて、出土遺物の取り上げや、実測杭の座標値の記録作成に活用した。また、岩崎孝平氏、山松晃太郎氏からは埋葬施設と墳丘のオルソ画像の提供を受けた。

調査区内の堆積状況は、表土層である灰褐色砂質土が20～30cmほど堆積しているが、竹の地下茎の影響で全体に堆積土は薄くなっている。このため、百塚88号墳以外の場所では、表土を除去するとすぐに明黄茶色粘質土の大山ロームを基盤とする地山となっており、陥穴などの遺構はこの地山の面で検出した。

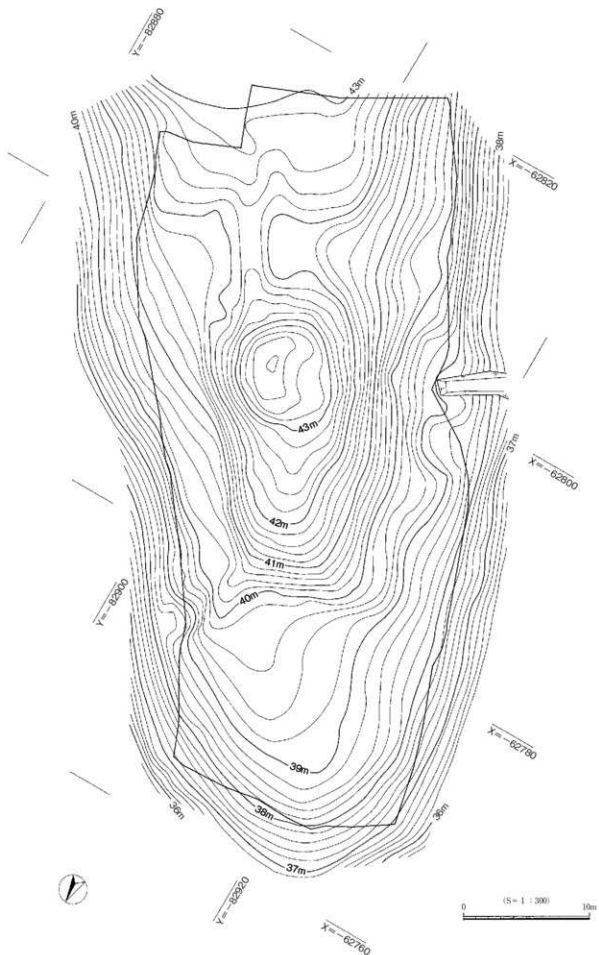
第2節 百塚88号墳の調査

百塚88号墳は、標高40m付近の細長い尾根上に位置している。

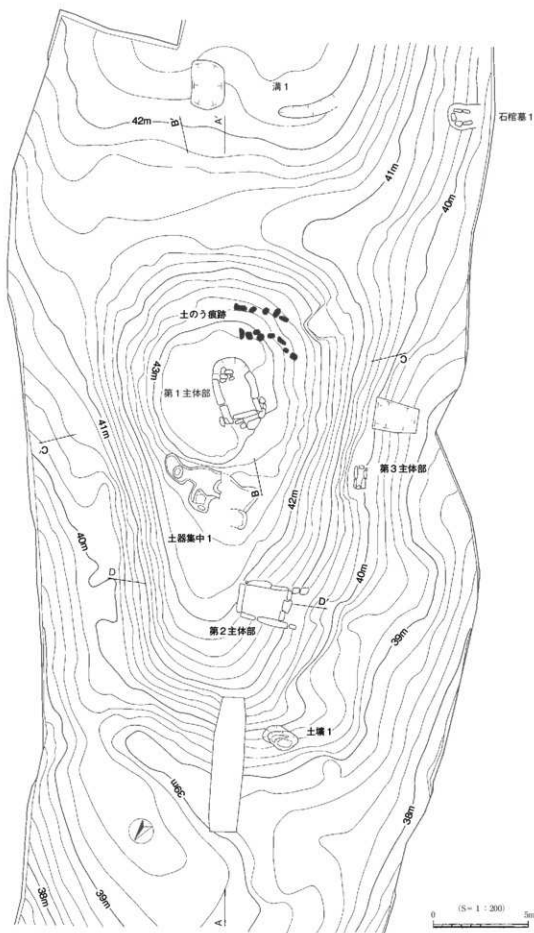
墳丘の規模は、調査前の測量で、長さ26m、後円部径12m、前方部幅12m、後円部高さ2.5m、前方部高さ2mの規模と推測された。墳丘の形はかなりいびつな前方後円形で、表土を除去する前には前方後方墳の可能性も考えられた。

古墳の墳丘構築は、盛土によって成されており、後円部では一部を土のう積みによって墳丘が構築されていることが判明した。また、後円部と前方部の間からは、埋葬儀礼に用いられたと見られる大量の須恵器が破碎された状態で見つかった。

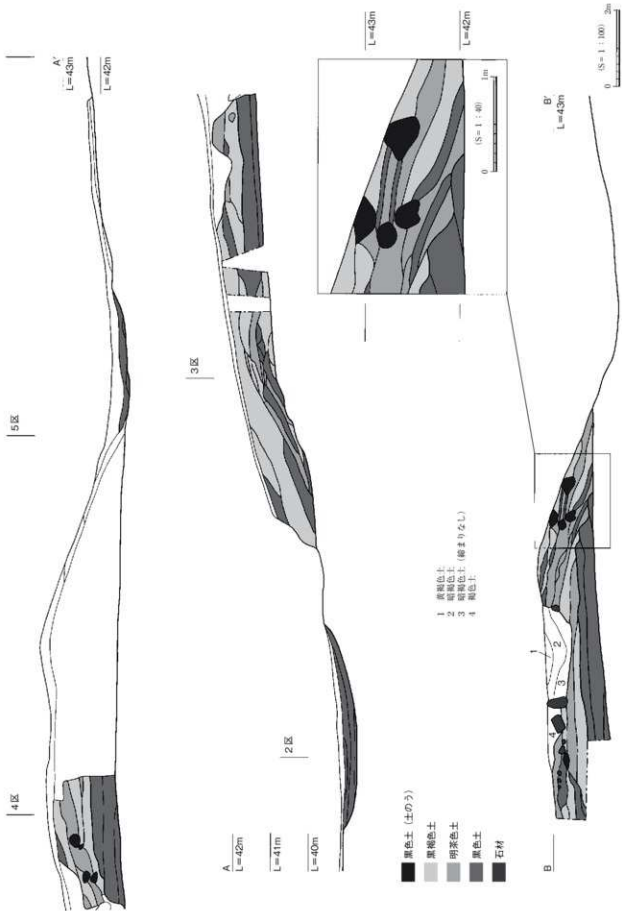
埋葬施設は、後円部と前方部にそれぞれ1基ずつ認められた。どちらも調査前から側石の一部が地表面に露出していたことから、過去に行われた盗掘により、天井石やその他の石材が抜き取られていた。また、西側のくびれ部付近で小型の石棺と、前方部の西側端部で土壇墓と見られる埋葬施設を確認した。



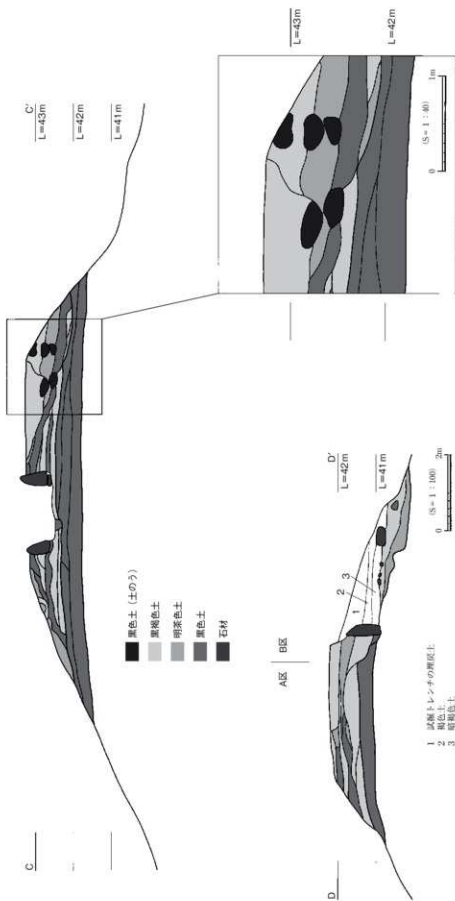
第5図 調査前測量図



第6図 調査後測量図 (古墳時代)



第7図 百塚88号墳丘陵断面図①



第8図 百塚88号墳墳丘断面図②

墳 丘

墳丘上を20cmほど覆っていた表土を除去し、墳丘の盛土を露出させて周溝を完掘した結果、百塚88号墳の規模は、全長28m、後円部の直径15m、前方部の長さ13m、幅14mの前方後円墳と推測された。墳丘の高さは盗掘により大きく削られているが、後円部で2.5m、前方部で2.2m程度残存しており、横穴式石室の存在などを考慮すると、本来はさらに1m以上の高さがあったものと思われる。

調査前の測量でいびつな形に見えていたのは、前方部の東側を道によって削平され、周溝の一部も埋められていたためであった。また、前方部の西側も重機による削平を受けており、この時に二つの主体部の石材が抜き取られたものと考えられる。また、前方部の西側に造出し状の平坦な地形が読み取れるが、これは下層に位置する古墳築造以前に存在したテラス状遺構の痕跡である。

前方部の先端は、東側が切欠きになっているためシメトリーにならない。大阪府高槻市の今城塚古墳や、奈良県橿原市の三瀬丸山古墳では、前方部の先端が剣菱形に突出する事例があるが、関連は分らない。

埋葬施設は、後円部のやや西寄りに主軸を北西—南東に向けた大型の石棺（第1主体部）があり、前方部には西に開口する横穴式石室（第2主体部）がある。どちらも調査前から一部が地表面に露出しており、盗掘を受けていた。また、西側のくびれ部で小型の石棺を1基、前方部の端で土壇を1基検出している。

盛 土

墳丘の下層には、地山の直上に古墳築造以前の旧表土と見られる黒色砂質土が厚く堆積しており、墳丘の盛土はこの黒色土の上面から始まっている。墳丘の盛土は、地山のロームを骨材にしている明茶色土と、古墳築造以前の堆積土である黒色土とロームを混合した黒褐色土の二つの土が主体となっており、現地での二種類の土を混合させながら、盛土を行ったと考えられる。

作業の工程は、最初に後円部に第1主体部を造った後に土を盛り、後円部の外縁に土のうを円周状に積み上げるようにして墳丘を保持させている。この土のう積の痕跡は、後円部の北側にも断面観察で確認されたことから、最初に円墳を作った後に前方部を継ぎ足したものと考えられる。

前方部は、第2主体部の面までは水平方向に土が盛られているが、第2主体部の北側から急に傾斜がきつくなっており、この傾斜面を境に南から北へ土を落とし込むように、斜め方向に土が盛られている。横穴式石室を作りながら前方部の端まで盛土を行い、墳丘を構築していった状況が窺える。

なお、本古墳が土のう積みによって構築されていると断定した根拠は、後円部の南側表面で円周状に並ぶ黒色土の土塊群を確認したことによる（写真図版19-3）。

周 溝

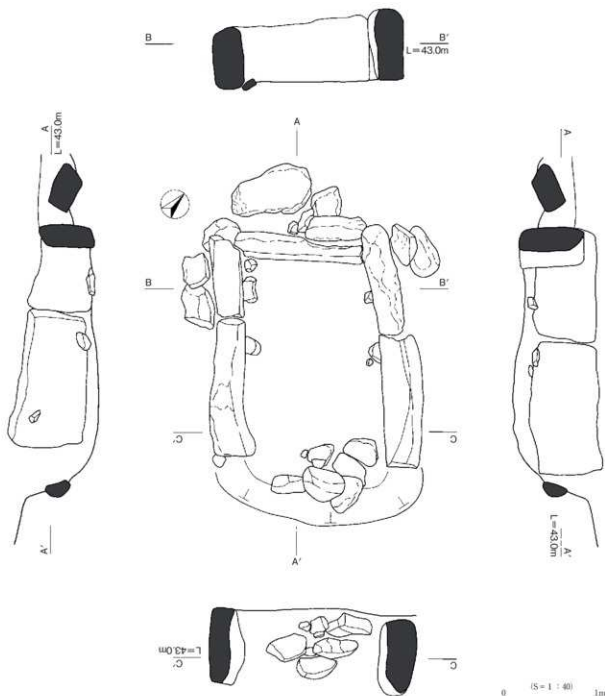
百塚88号墳の周溝は、南側の丘陵との接続部分を切断して作られている。この時に発生した土砂が、墳丘の盛土に用いられていると考えられる。後円部の周溝は、南側の丘陵を切断する部分がやや直線的に掘られているが、北側は円形となっていることから、百塚88号墳が前方後円墳であるとする根拠となろう。

前方部側の周溝は直線ではなく円周状に掘られているため、前方部の先端部が突出するような形態となっているが、後世の攪乱などは見られなかったことから、当初からこのような形で前方部側の周

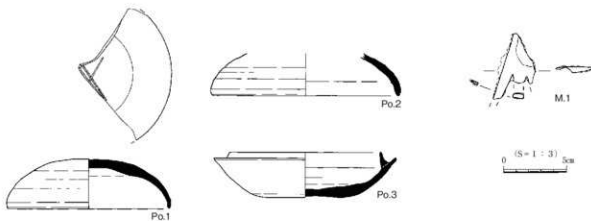
溝が掘削されたと考えられる。

また、前方部の北東側は周溝を掘り残し陸橋状となっているが、これは後世に道を付けた際に、埋め戻されたものと推測される。

周溝内から出土した遺物については、前方部の周溝内から、土師器甕 (Po. 137)、須恵器有蓋高坏の蓋 (Po. 138)、須恵器坏蓋 (Po. 139) が出土しているが、全体に破片が多く、完形品にまで復元できる物が無いことから、大半が墳丘上の土器集中から転落したものと見られる。



第9図 第1主体部 遺構図



第10図 第1主体部 遺物図

第1主体部 (第9・10図)

百塚88号墳の後円部墳頂、やや南西寄りに配置された大型の石棺である。検出した段階で、蓋石と南側の小口板が失われていた。石棺の石材は、風化の進行した凝灰角礫岩を用いている。

石棺の規模は、内法で長さ2～2.1m、幅1.4～1.5m、現存する高さ0.8m程度と推測される。石材は、いずれも20cm以上の厚みのあるものが用いられている。

石棺の組み立ては、最初に小口板を立てて裏込め部に大型の石を置いて安定させたのち、側板の石材を並べている。側板の固定には、石の下に平べったい小石を噛ませて真っ直ぐ立てている。この石棺は、掘形が見られないことから、石棺を組み立てた後に古墳の盛土を行っている。

石棺内は徹底的に盗掘されており、床面まで掘り込まれている状況であったため、埋葬当時の状況を探ることはできなかった。

この主体部に伴う遺物については、棺内の埋土を全量持ち帰り水洗選別を行ったが、須恵器と鉄製品の破片が出土したのみで、玉類などは出土しなかった。石棺の埋土中からはビニール袋の破片が出土したことから、最終的な盗掘は現代まで行われていたのか、あるいは最近になってから盗掘坑を埋め戻したのか分からない。

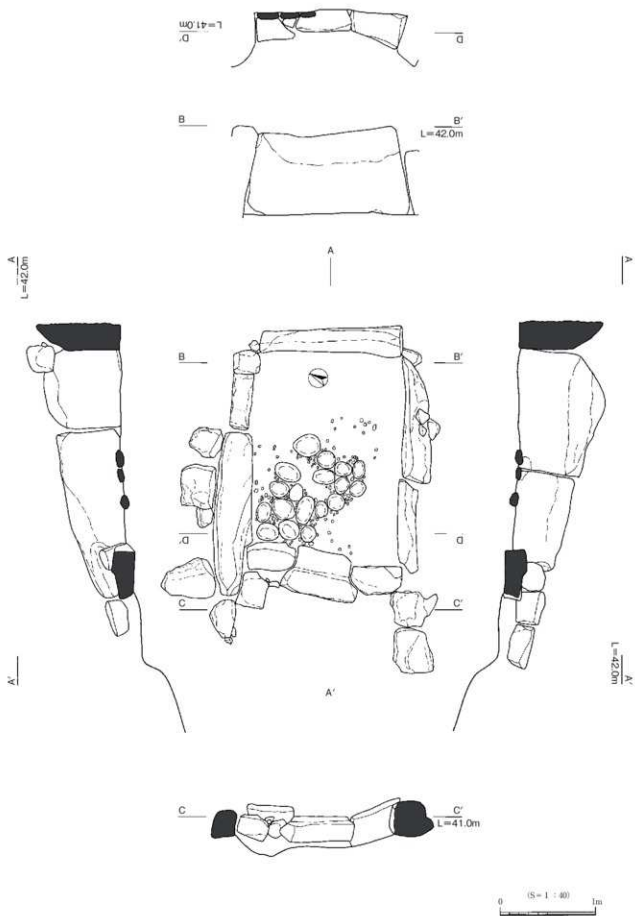
須恵器坏蓋 (Po. 1) は、天井部に「×」のヘラ記号が刻まれている。Po. 2は、石棺の裏込めから出土した須恵器坏蓋の破片。Po. 3は、口径12cmの須恵器の坏身。鉄製品 (M. 1) は、埋土の水洗選別によって検出したもので、かえしの付く鉄鍔の基部と見られる。

第2主体部 (第11・12図)

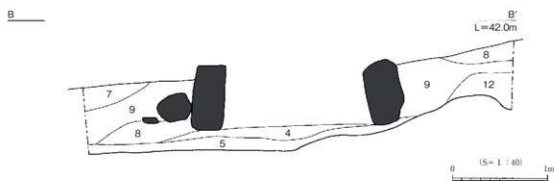
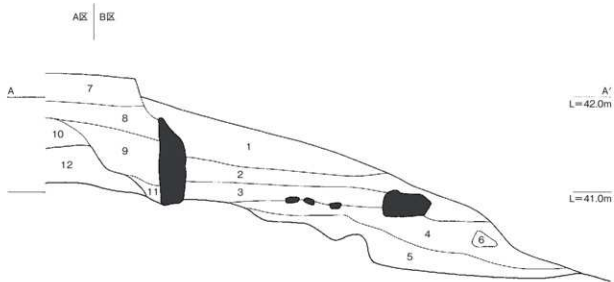
百塚88号墳の前方部で検出した、横穴式石室である。検出時にはすでに天井石が失われており、側石も墳丘の斜面に沿って割られ、地表に露出した部分がほぼ無くなっている状況であった。恐らく、風雨にさらされた結果、石材が消滅したと考えられる。

この石室は、凝灰角礫岩を用いた切石造りで、玄室の長さ2.1m、幅1.7～1.8m、高さ0.9mが現存している。天井石が失われているため、築造当初の石室の高さは分からないが、玄室の幅1.8mを大きく超えない規模のものと推測される。石材の厚みは、奥壁や側石で30cm以上あるものが使用されている。

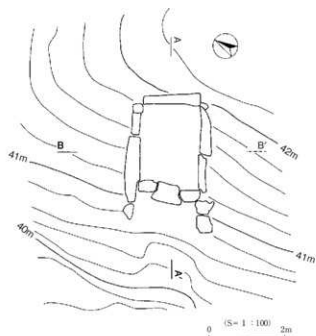
石室は、西方向に開口し、羨道部から奥壁までほぼ同じ幅である。玄門の構造は、上部の石材が失



第11図 第2主体部 遺構図



- 1 試掘トレンチの埋戻土
- 2 褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 黒褐色土
- 5 明茶褐色土
- 6 黒色土
- 7 黒褐色砂質土
- 8 明茶灰色砂質土
- 9 試掘褐色砂質土 (地山ブロック土を多く含む)
- 10 暗褐色砂質土
- 11 黒色砂質土
- 12 淡黒色砂質土



第12図 第2主体部 断面図

われているため分からないが一枚板を加工して入口を彫りこんだものか、あるいは二枚の袖石（玄門立柱）を立てていたと推測される。淀江平野では、6世紀後半以降は前者の事例が多い。

玄門の底面には、平面形を「凸」形に加工した框石を置く。框石の上面には、高さ5cmほどの段が設けられており、玄室側が高くなっている。玄門の幅は60cmしかなく、木棺を入れるにはやや狭い印象を受ける。

玄門の石材と端部が接合する側石の組み合わせ部は、「L」字形に加工されている。また、北側の側石の表面には、床面付近にうっすらと赤い顔料が付着した痕跡が認められた。羨道部の規模は、石材がほとんど残っていないため不明だが、1m以上の長さがあったものと推測される。

この石室は掘形が無く、墳丘の盛土作業と並行して組み立てが行われたと考えられる。側石や奥壁の石材の底面は、全ての表面が平滑に加工されていたことから、地山を掘削した後盛土を行い、床を水平に整えた状態で組み立てられている。

石材表面の加工痕跡は、石室側ではあまり見られなかったが、奥壁や側石の裏側には粗く加工した鑿痕が明瞭に残っていた（写真図版13-3）。石室内は、築造当初は底面に扁平な円礫を敷き詰めたと考えられるが、盗掘により半分以上持ち去られている。石室内の埋土は、全量を持ち帰り水洗選別を行ったが、玉類や鉄片などの微細な遺物は見つからなかったことから、徹底的な盗掘を受けたものと考えられる。

第3主体部（第13・14図）

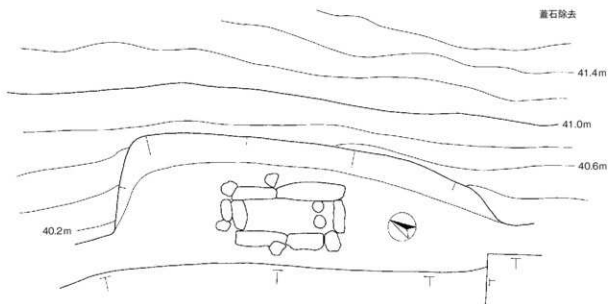
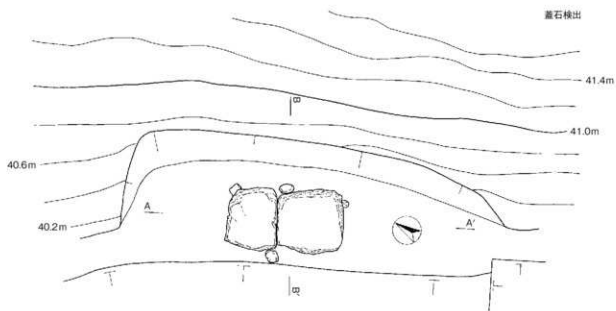
百塚88号墳の西側くびれ部付近で検出した小型の石棺である。この石棺の蓋石は、二つの平石を並べて閉塞していたが、西側は石棺材の重みの為に沈下している。蓋石は長さ70cm、幅68cm、厚さ22cmと、長さ52cm、幅66cm、厚さ22cmの2枚で構成されている。石材は第1・第2主体部と同じ、凝灰角礫岩を用いており、表面はなめらかに加工されている。この蓋石は、一般的な蓋石と比較して必要以上の厚みがあるように見受けられるが、石材は全体的に風化が進んでおり、蓋石を持ち上げる際にバラバラに破損してしまうほどであった。このため、石材の厚みを持たせることによって、石の形を保持させていたと考えられる。

石棺は二つの石材を用いて長側板とし、小口部は1枚の石材を用いている。石材は、蓋石と同じく厚みのあるものを用いている。石棺の内法は、長さ90cm、幅35cm、高さ25cmを測る。棺床には直径1～5cm程度の円礫が敷き詰められており、南側の端部には須恵器の坏を転用した枕が置かれている。

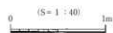
棺内からは、須恵器以外の遺物は出土しなかったが、石棺の蓋石検出面の北側から黒曜石製の打製石鏃が1点出土した。また、石棺の検出作業中にも表土から水晶製の勾玉が1点と須恵器の細片が出土しているが、これらは百塚88号墳の土器集中1から転落した遺物と見られる。

須恵器坏蓋（Po.4）は、口径12.8cm、高さ3.8cmで、天井部はヘラ切り後にナデ調整を施す。須恵器坏身（Po.5）は、口径11.4cm、高さ3.8cmで、口縁部の返りは短い。底部の外面は回転ヘラケズリ調整がなされている。水晶製の勾玉（S.1）は、長さ3.1cm、幅1.3cm、厚さ0.7cm、重さ7.5gで、表面にはくすんだような磨り痕が残る。穴は、片面穿孔で貫通している。打製石鏃（S.3）は小型の黒曜石製で、長さ1.7cm、幅1.6cm、厚さ0.4cm、重量は1.0gを測る。

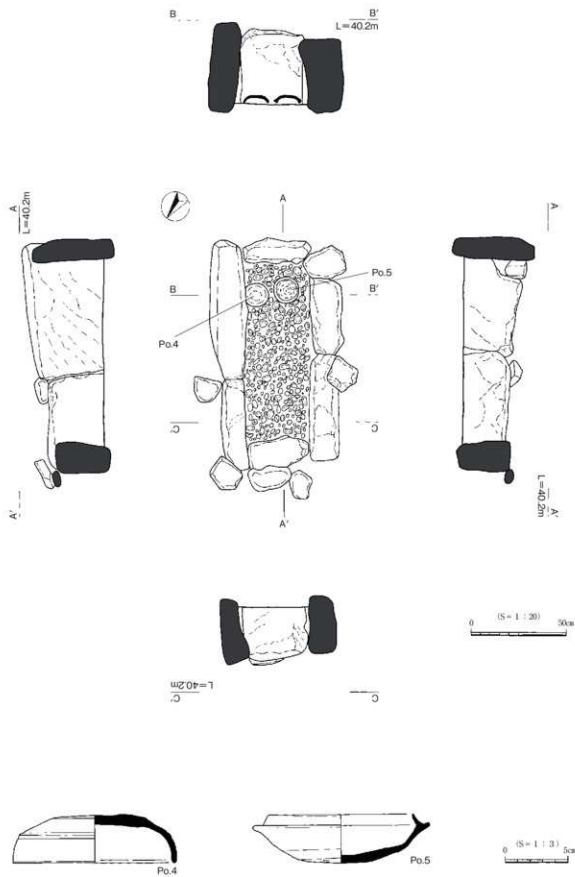
この埋葬施設の時期は、百塚88号墳が築造されたのと同じ、6世紀後半頃と推測される。



- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1 暗茶灰色砂質土 | 6 礫床 | 11 暗褐色砂質土 |
| 2 淡黒灰色砂質土 | 7 明黄茶色砂質土 | 12 淡黒灰色砂質土 |
| 3 深黄茶色砂質土 | 8 淡黒茶色砂質土 | 13 清褐色砂質土 |
| 4 暗黄茶色砂質土 | 9 明黒茶色砂質土 | 14 明白茶色砂質土 |
| 5 茶灰色砂質土 | 10 明灰褐色砂質土 | |



第13図 第3主体部 遺構図①



第14図 第3主体部 道構図②・遺物図

土器集中1 (第15~30図)

墳丘の表面を覆っている表土を除去する作業中に、後円部と前方部の間の空間から大量の須恵器が出土した。須恵器の出土状況は、ほぼ全ての須恵器が細かく割れた状態であったため、墳丘上において意図的に須恵器を割る行為が行われたと考えられる。

これらの土器が出土したレベルは概ね揃っており、土坑の中に破碎した須恵器を一気に投棄したような状況であった。これらの須恵器の広がり、6m×4mの範囲に及んでおり、表土を40cmほど掘り下げた段階でようやく土坑状の掘形を確認したが、断面観察ではさらに上層から掘りこまれた状況が見て取れたことから、現在よりも墳丘の高さがあった時期には、後円部と前方部の間に大きな土坑が掘られていたと考えられる。

ここから出土した遺物は、大半が須恵器であり、それ以外の遺物は土師器の高杯が1点と馬具が1点、碧玉製の勾玉1点のみである。

出土した須恵器は、杯の身と蓋、有蓋高杯と無蓋高杯、鉢、壺、甕、横瓶、提瓶、甕、鳥形の装飾を持つ壺などが出土している。これらの遺物はほぼすべてが破片となっており、完形品に復元出来たものは、壺 (Po. 108) のみである。

杯蓋は、口径13~14cm、高さ4cm前後のものが主体を占めるが、口径12cm以下の小型品も少量含まれる。天井部の調整は、回転ヘラケズリのみで終了したものが多く、カキ目調整を施すものや、一部をナデ調整するものがある。また、小型品はヘラ切り後に天井部をナデ消すものがほとんどであり、時期的に後出するものと考えられる。つまみの付く蓋は、全て有蓋高杯のものと推測されるが、口径が大きなものは長脚タイプに伴うもので、口径の小さなものは短脚タイプの有蓋高杯に伴うものであろう。

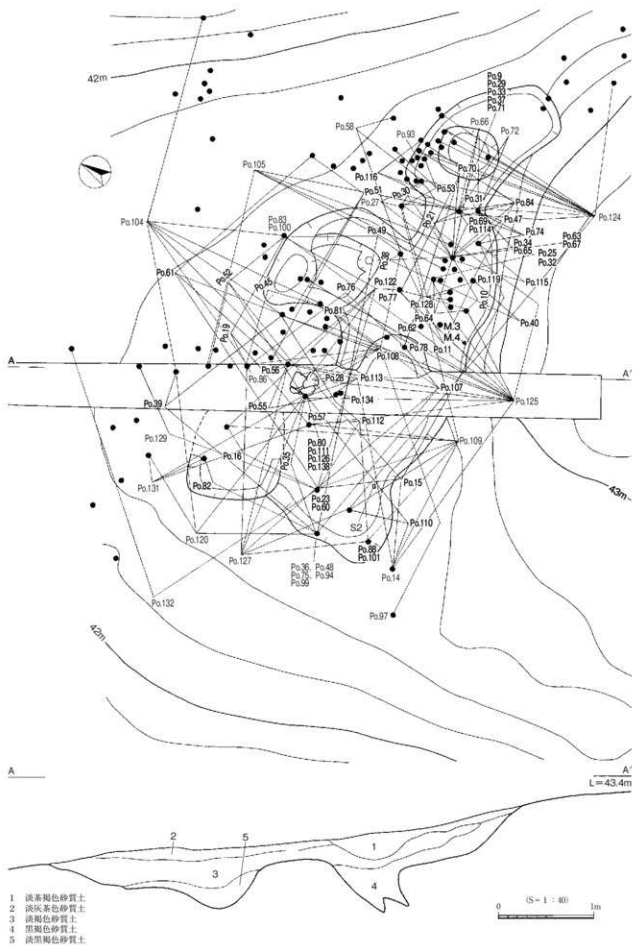
杯身は口径11~13cm、高さ4cm程のものが主体であり、底部を回転ヘラケズリ調整のみで終わるものと、ナデ消すものが混在している。

有蓋高杯は、長脚で二段に透かしを持ち、二段の透かしの間に沈線が巡るものと、短脚で透かしを持つものと持たないものがある。この中で、透かしを持たないものは、脚端部の調整がシャープなものが多い。長脚二段透かしの有蓋高杯は、高さ18~20cmのものが主体で、短脚のものは高さ10~11cmに揃っていることから、高杯などの台付きの須恵器については、ある程度の規格性を持った製品群であると考えられる。

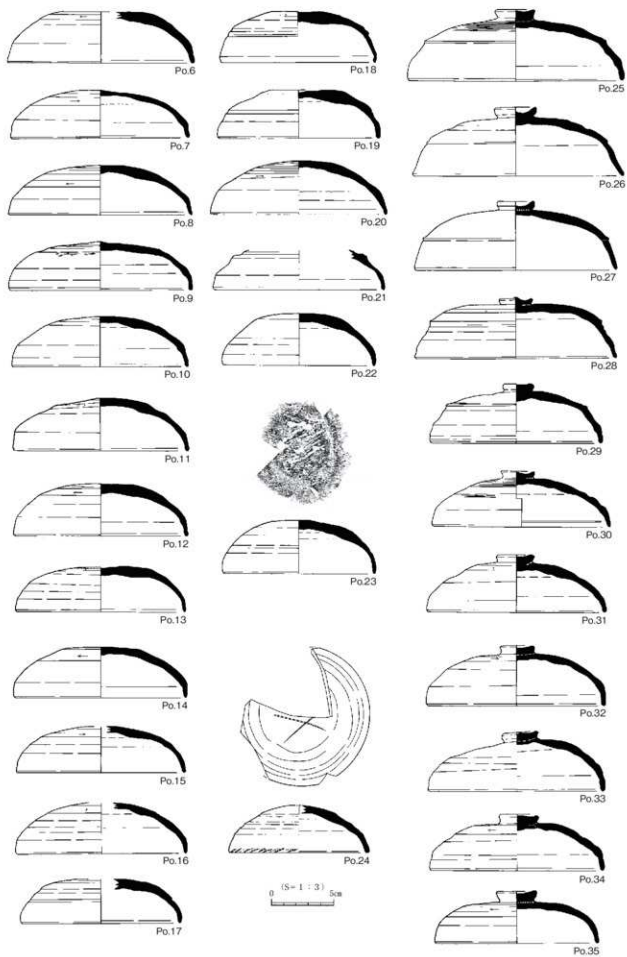
無蓋高杯は、長脚で透かしが二段にわたるタイプのもが目立つが、有蓋高杯よりも点数が少ない。Po. 59は口径12.6cm、高さ18.9cmの無蓋二段高杯である。Po. 60は、口径11.8cm、高さ18cmの無蓋高杯で、口縁端部がやや外方に広がる。Po. 61は、長脚二段の無蓋高杯で、脚端部には熔け落ちた窯壁の一部が付着している。Po. 62は、無蓋の二段透かしを持つ高杯だが、長脚タイプと比べると高さが14.3cmしかない。

短脚の有蓋高杯は、一段のみ透かしを持つものと、透かしを持たないものに分けられ、透かしも長方形と三角形、丸形などがある。脚端部の処理も短いものと、大きく屈曲させ外面を肥厚させるものがある。

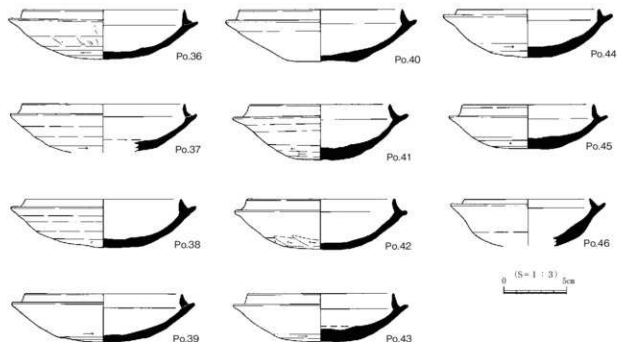
Po. 87は、短脚の無蓋高杯で脚部には三角形の透かしを入れる。Po. 88は、無蓋高杯と見られる破片で、胎土が白っぽく脆い。Po. 89は、外面にカキ目を施す台付鉢で、脚部に透かしが入る。Po. 90は、口縁が直線的に立ち上がる台付鉢で、胴部に沈線が巡る。Po. 91は脚部を欠くが、小型の長脚無



第15図 土器集中1 遺構図



第16図 土器集中1 出土遺物図①



第17図 土器集中1 出土遺物図②

蓋高坏とみられる。

Po. 92は、土師器高坏で、図化できた土師器はこの1点のみである。口径15.2cm、高さ10.2cmの大きさで、色調は明るい橙褐色を呈している。

Po. 93は、つまみの部分を欠くが、口径6.2cmの須恵器長頸壺の蓋と見られる。

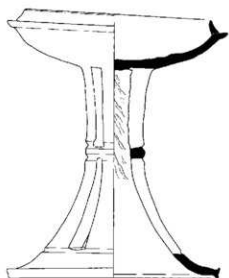
Po. 94からPo. 100は、小型の鉢と推測されるが、Po. 97～100は口縁端部に厚みがあることから短頸壺の蓋の可能性もある。Po. 102とPo. 103は、大きく焼け壺んだ須恵器坏蓋であるが、このような失敗品が流通する背景には、須恵器の窯が近くにあることを示しているのかも知れない。Po. 101は高台を持つ須恵器坏身で、後世のものが混入したと推測される。

Po. 104は口縁部を欠くが、台付きの長頸壺である。肩部に沈線と刺突文を施し、脚部は方形の透かしを二段にわたって設けている。Po. 105は、口径7.1cm、高さ15cmの長頸壺。Po. 106は口径8.2cmの須恵器長頸壺の口縁部。Po. 107も長頸壺の胴部と見られる。

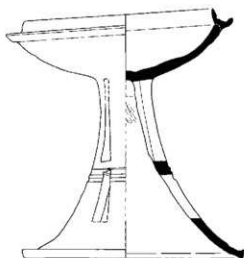
Po. 108は、肩部に二段にわたって刺突文を施す広口壺で、この壺のみ完形品にまで復元できた。出土状況から、土坑の中に安置されたまま埋められたためと考えられる。Po. 109は、広口壺か短頸壺の胴部と見られる。胴部と底部には、焼成時に付着した須恵器片が付着している。Po. 110は、口径18.2cm、高さ20.5cmの広口壺。Po. 111は、口径13.6cm、高さ20.8cmの広口壺で、底部を回転ヘラケズリ調整する。Po. 112は、口径10.1cm、高さ24.6cmの短頸壺で、肩部に刺突文を施す。Po. 113は、口径9.4cm、高さ27.1cmの短頸壺である。

Po. 114は、口径6.4cm、高さ8.3cmの口縁部が真っ直ぐ立ち上がる小型の短頸壺である。Po. 115は、口径6.6cm、高さ6.7cmの口縁部が外反する短頸壺である。Po. 116は、口径11.9cm、高さ13.6cmの甕で、口縁部は大きく外反し、底部は平底となる。Po. 117も直接は接合しないが、同一の甕の破片で、底部は平底となる。

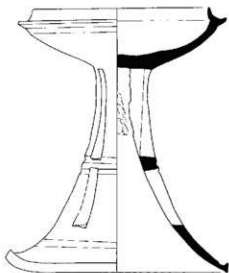
Po. 118、Po. 119は、提瓶か平瓶の口縁部である。Po. 120は、口径7.6cmの提瓶。Po. 121は提瓶の胴部で、肩部には退化した把手を付ける。Po. 122は、肩部に退化した鉤状の把手を付ける提瓶であ



Po.47



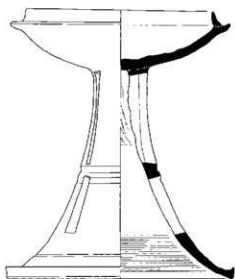
Po.50



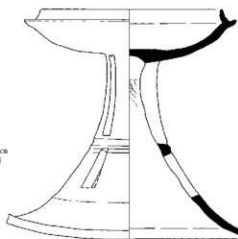
Po.48



Po.51

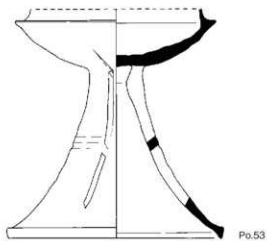


Po.49

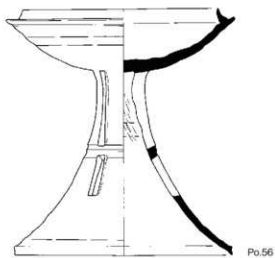


Po.52

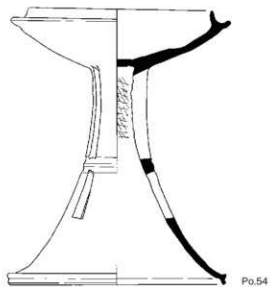
第18图 土器集中1 出土遺物图③



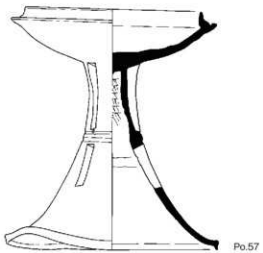
Po.53



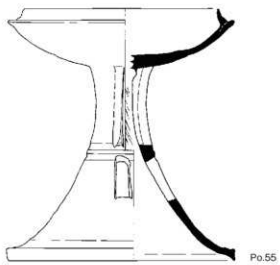
Po.56



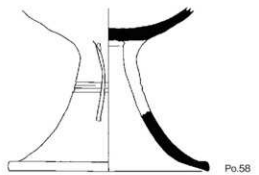
Po.54



Po.57

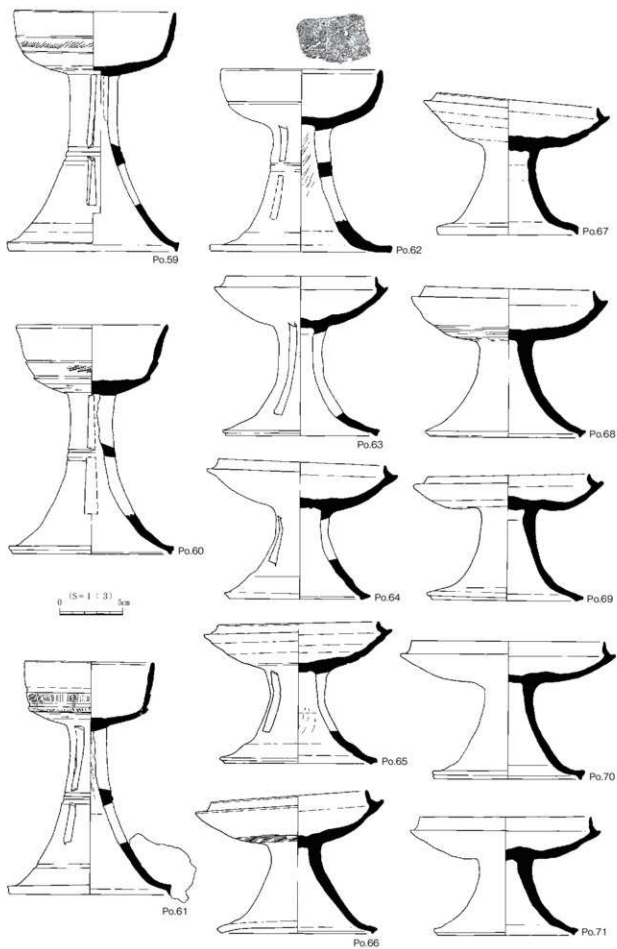


Po.55

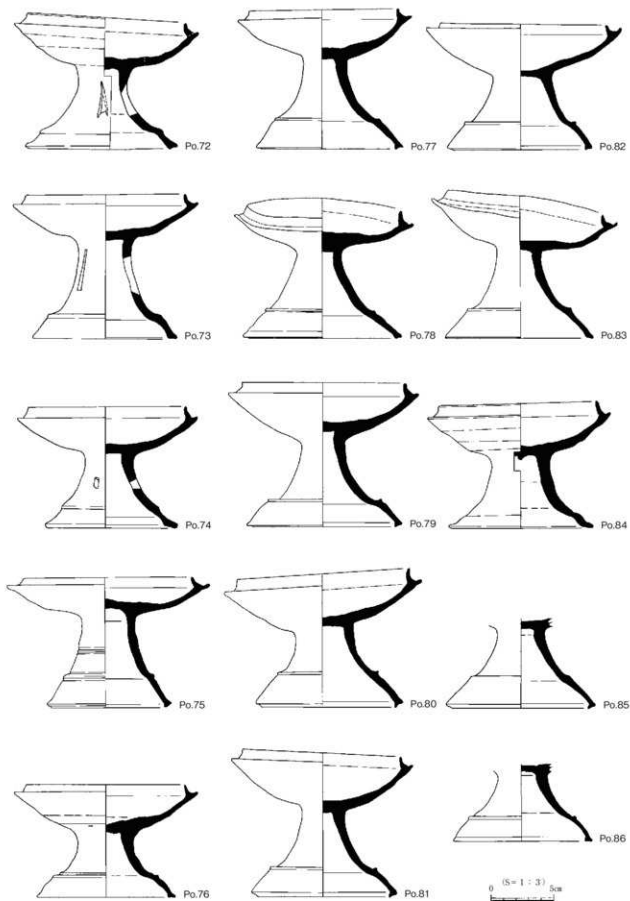


Po.58

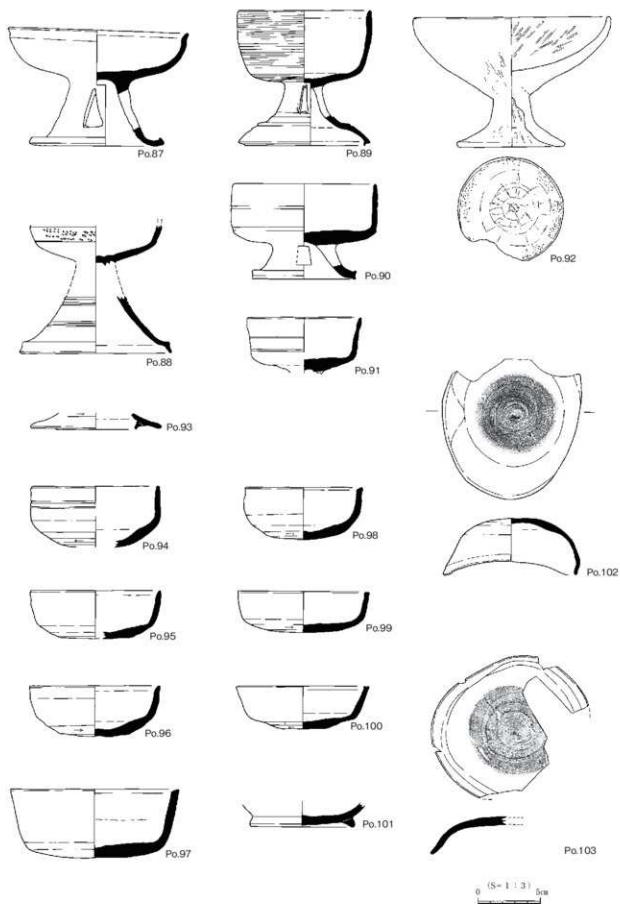
第19图 土器集中1 出土遺物图④



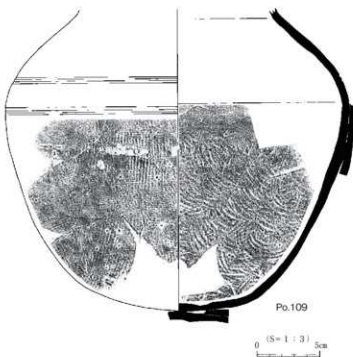
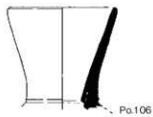
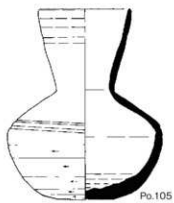
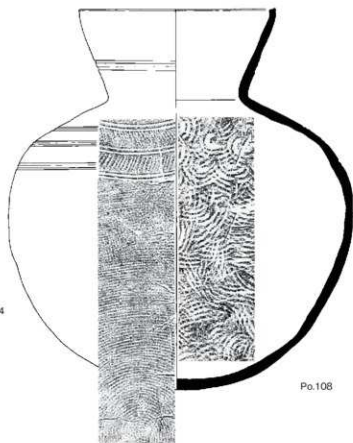
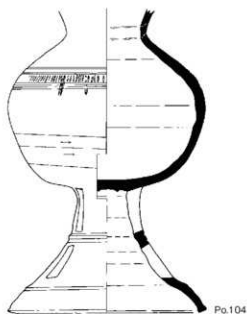
第20図 土器集中1 出土遺物図⑤



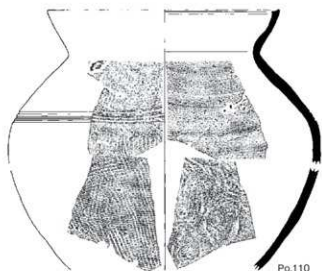
第21图 土器集中1 出土遺物图⑥



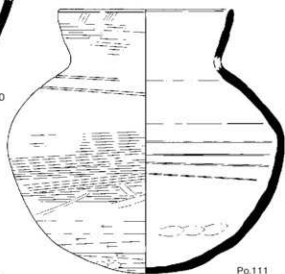
第22図 土器集中1 出土遺物図⑦



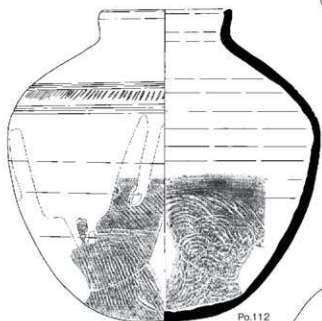
第23図 土器集中1 出土遺物図⑧



Po.110

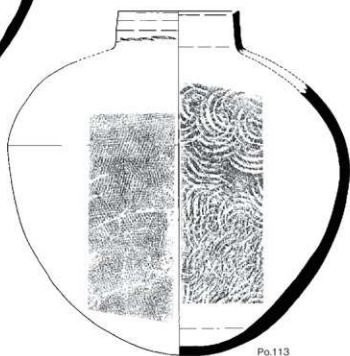


Po.111



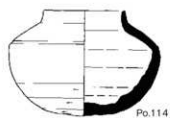
Po.112

(S=1:3)
0 5cm

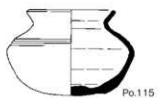


Po.113

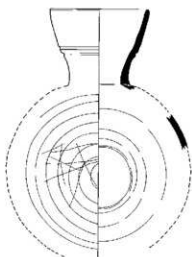
第24図 土器集中1 出土遺物図⑨



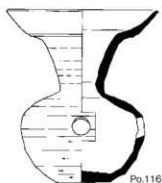
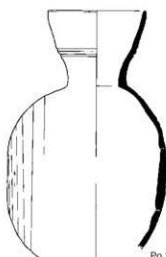
Po.114



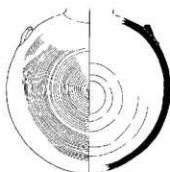
Po.115



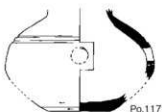
Po.120



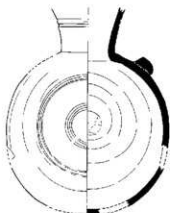
Po.116



Po.121



Po.117



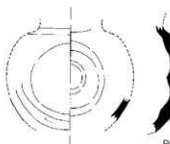
Po.122



Po.118



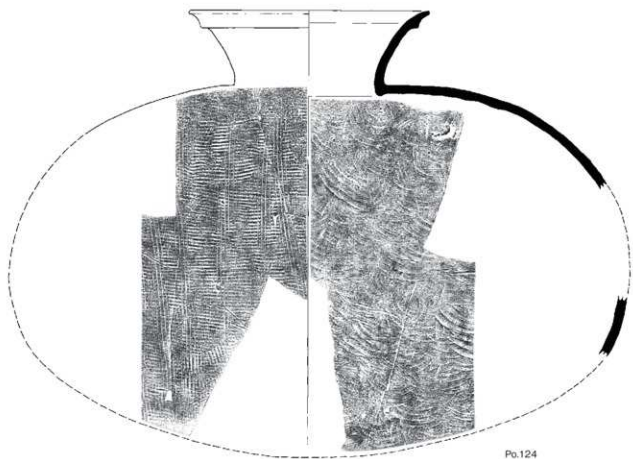
Po.119



Po.123



第25図 土器集中1 出土遺物図⑩



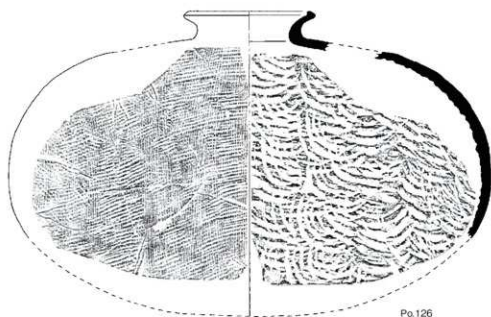
Po.124



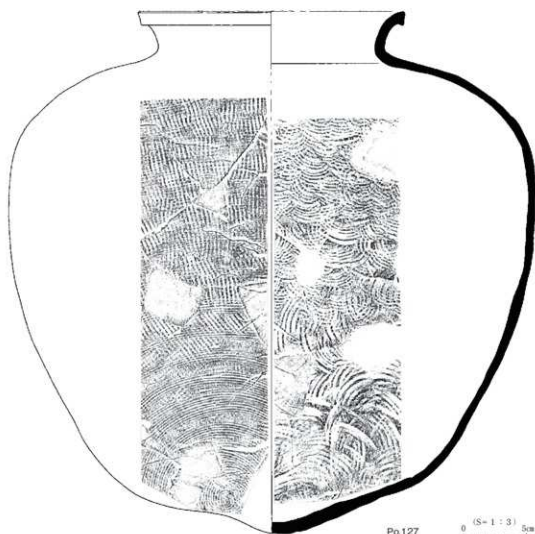
Po.125

0 (S=1:3) 5cm

第26図 土器集中1 出土遺物図①



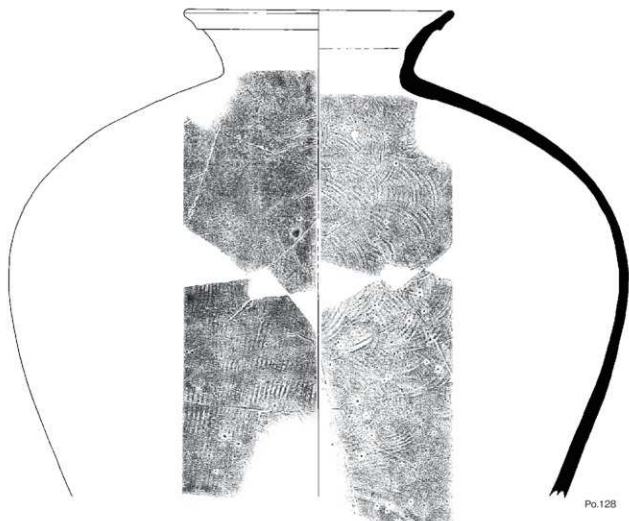
Po.126



Po.127

(S-1:3) 5cm

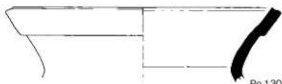
第27図 土器集中1 出土遺物図⑫



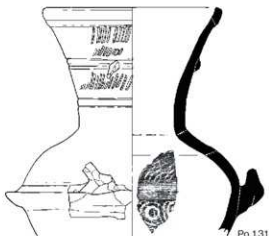
Po.128



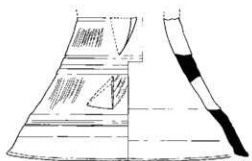
Po.129



Po.130



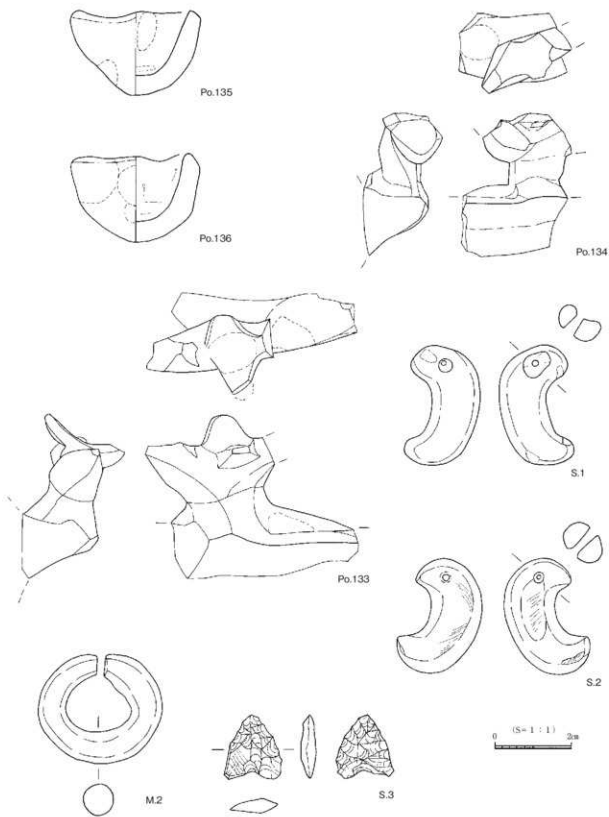
Po.131



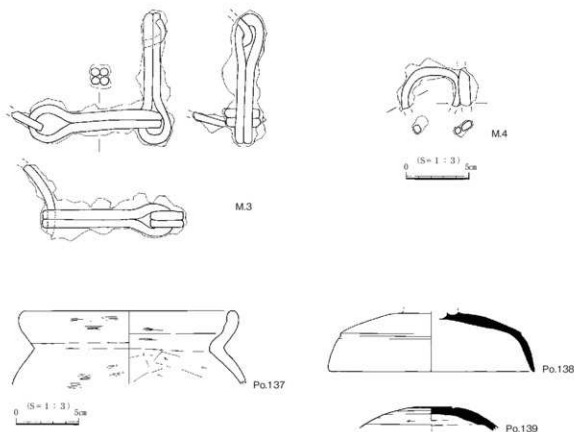
Po.132

0 (S=1:3) 5cm

第28図 土器集中1 出土遺物図⑬



第29图 土器集中1・第3主体部 出土遺物图⑭



第30図 土器集中1・周溝内 出土遺物図⑮

る。Po. 123は小型の提瓶である。

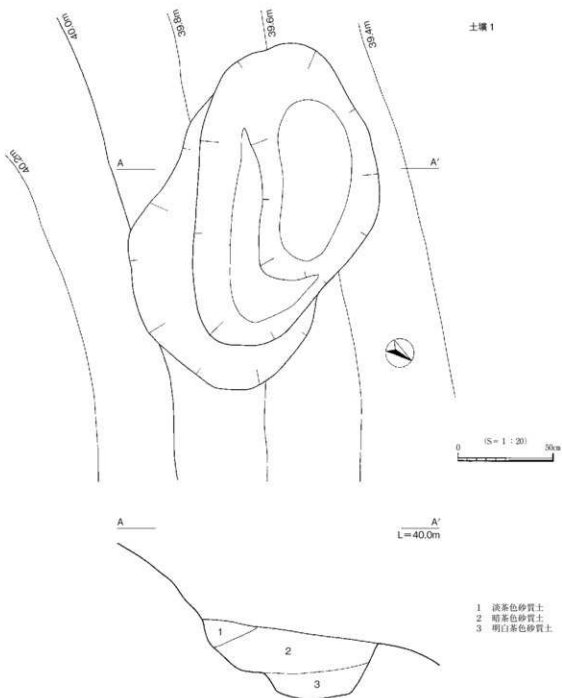
横瓶は、3点を図化した。Po. 124は口径18.6cm、高さ35.1cmの大型品で、想定される横幅は反転復元で50cm近いものと推測される。Po. 125は、口径13.3cm、高さ27.7cmの横瓶で、暗赤灰色を呈している。Po. 126は、口径9.2cm、高さ24cmの横瓶で、Po. 125よりも茶色味の強い色に焼きあがっている。

Po. 127は、口径21cm、高さ41cmの甕で、タタキによって丸底に整形され、底部外面はカキ目調整されている。Po. 128は大型の甕で、口径21cm、現存高38.3cmを測る。Po. 129、Po. 130も、Po. 128と同様に口縁の端部外面を肥厚させる甕である。

Po. 131は、壺形の装飾須恵器で、胴部に突帯を貼り付けて、その上に鳥形の装飾を付加している。Po. 132は器台の脚部とみられる。沈線によって区画された範囲に、板材を用いて右上がりの刺突文を施し、三角形の透かしを二段にわたって配置している。装飾須恵器 (Po. 131) の脚部か。Po. 133とPo. 134は、表面に付着した軸調から、装飾須恵器 (Po. 131) から脱落した鳥形の部品と考えられる。どちらも頭部と翼の一部を欠くが、鳥を模したものと推測される。

Po. 135は高さ3cm、Po. 136は高さ2.9cmのミニチュアの土器である。全面が粗いてづくねによって整形されている。

碧玉製の勾玉 (S. 2) は、長さ3.1cm、幅1.4cm、厚さ0.8cmで、全体に磨り痕が残る。穴は、片面穿孔で貫通している。M. 2は銅製と見られる耳環である。手に持ってみると、ずりとした重量感があるため、内部は中実と見られる。耳環の表面には、一部に銀メッキが残っている。鉄製品のM. 3とM. 4は接合関係にあり、馬具の鐙に繋がる兵庫鎖と鉸具の部品と推測される。

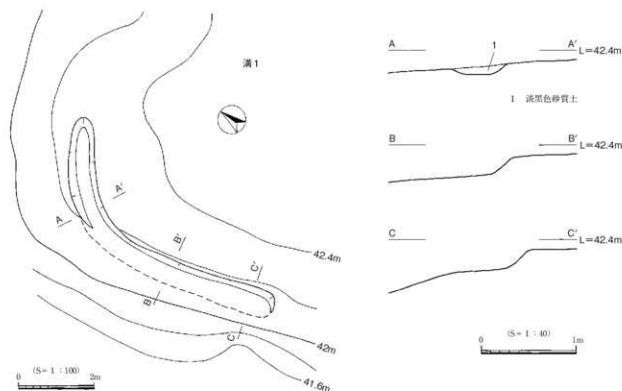


第31図 土壌 1 遺構図

土壌 1 (第31図)

前方部の北西端部で検出した、楕円形の土坑である。遺構の規模は、検出面で長さ1.5m、幅0.9mで南側に段を持ち、北側には底面で長さ80cm、幅40cm、深さ15cmの楕円形の土壌が広がる。土壌内の埋土は、底面に明白茶色の砂質土が堆積していたが、木棺の痕跡は確認することができなかった。

この遺構からは遺物は出土しなかったが、形態的な特徴から小児用の埋葬施設の可能性が考えられる。



第32図 溝1 遺構図

溝 1 (第32図)

百塚88号墳の後部部の周溝を挟んだ南側の丘陵上、標高42m付近で検出した、平面が緩い「し」字形を呈する溝である。遺構の規模は、検出した長さ3m、幅30cm、深さ10~20cmで、断面は緩やかな「U」字形を呈している。溝内の埋土は、淡黒色の砂質土が一層のみ薄く堆積していたが、遺物は出土しなかった。

周辺の状況や過去の類例から見て、墳丘の大半が削平された、直径5~6mほどの小型円墳の周溝の可能性が考えられるが、埋葬施設を確認することができず、遺構内からも遺物が出土しなかったことから、古墳の周溝と断定することができなかった。

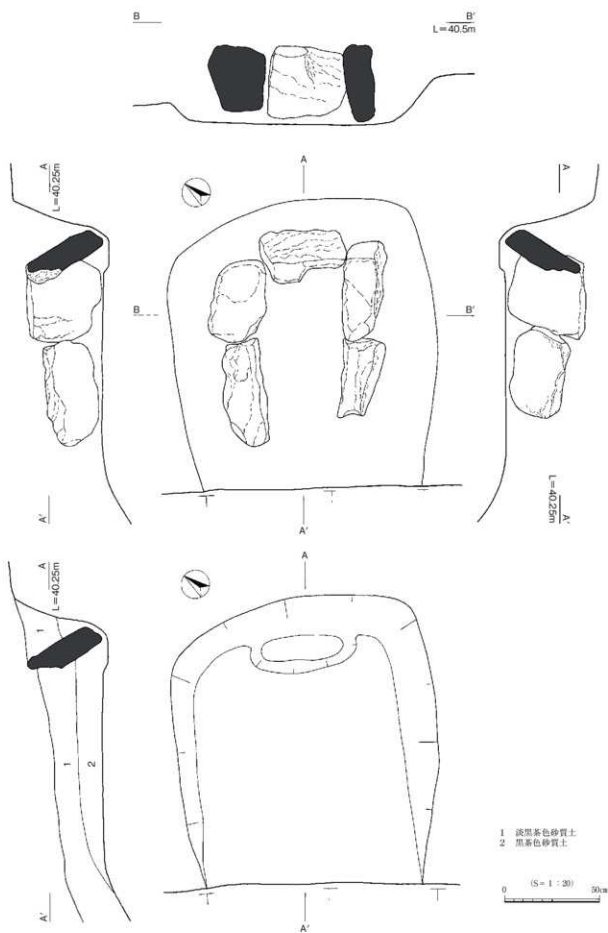
石棺墓 1 (第33図)

C-5区の西側斜面、標高40.5m付近で表土を除去した段階で検出した石棺である。検出した時点で蓋石は無く、西側も完全に削平されており、東側のみ石棺材が残る状態であった。石棺材は、凝灰角礫岩が用いられている。

残存する石棺の規模は、内法で長さ1m、小口部の幅45cm、石棺の高さ42cmを測る。東側の小口板は、上部が棺内に倒れ込んでいる状況であったことから、蓋石が取り外された時に攪乱されているものと考えられる。

石棺の掘形は、現存する長さ1.5m、幅1.4m、深さ0.5mで、底面は平坦に掘られているが、小口板を受ける部分のみ3cmほど窪ませている。棺内の埋土は、底面に黒茶色の砂質土が堆積しているが、激しい盗掘を受けたような痕跡は認められなかった。

棺内からは、副葬品などの遺物は出土しなかった。



第33圖 石棺墓 1 遺構圖

第3節 百塚第7遺跡の調査

百塚88号墳の墳丘の盛土の下層と周辺では、縄文時代のものと思われる陥穴を8基、古墳時代中期の竪穴建物1棟、テラス状遺構1基、掘立柱建物1棟を検出した。

これらの遺構に伴う遺物は少なく、竪穴建物1で土師器と須恵器が少量出土したほかは、表土の掘削中に縄文土器や弥生土器の破片が少量出土したに過ぎないことから、古墳時代以外の遺構が希薄な地区と推測される。

陥穴1（第35図）

B-5区の標高41.7m付近で検出した楕円形の土坑である。検出面の長径1.2m、短径0.8mで、深さは1mである。土坑の底面中央には直径15～20cm、深さ70cmのビットが掘られており、形態的な特徴から縄文時代に動物を捕獲するために掘削された陥穴と推測される。この遺構からは、遺物は出土しなかった。

陥穴2（第35図）

百塚88号墳の南側周溝内で検出した、小規模なビットである。埋土が陥穴に特有の黒色土であったことから、百塚88号墳の周溝を掘削した際に陥穴が削平され、中央部のビットのみが残ったと考えた。検出したビットの規模は、25～40cm、深さ50cmである。この遺構からは、遺物は出土しなかった。

陥穴3（第35図）

百塚88号墳の後円部の墳丘下層で検出した、円形の土坑である。検出面の直径は1mで、深さは1.35mを測る。土坑の底面中央には、直径25cm、深さ45cmのビットが掘られている。この遺構からは、遺物は出土しなかった。

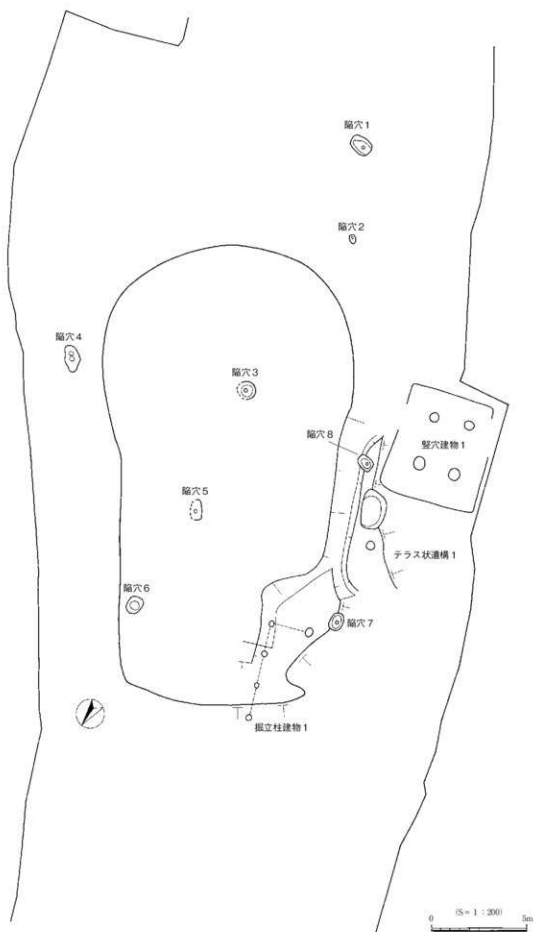
陥穴4（第35図）

百塚88号墳の後円部東側で検出した、底面が隅丸方形を呈する土坑である。検出面の規模は、長さ1.35m、幅0.9m、深さ0.6mを測る。土坑の底面に20～30cmの二つの小ビットがあり、更に底面では杭を固定したと見られる、深さ50cmの二つの小穴に分岐している。土坑の中央に4本の杭が立てるために掘削されたビットと推測される。

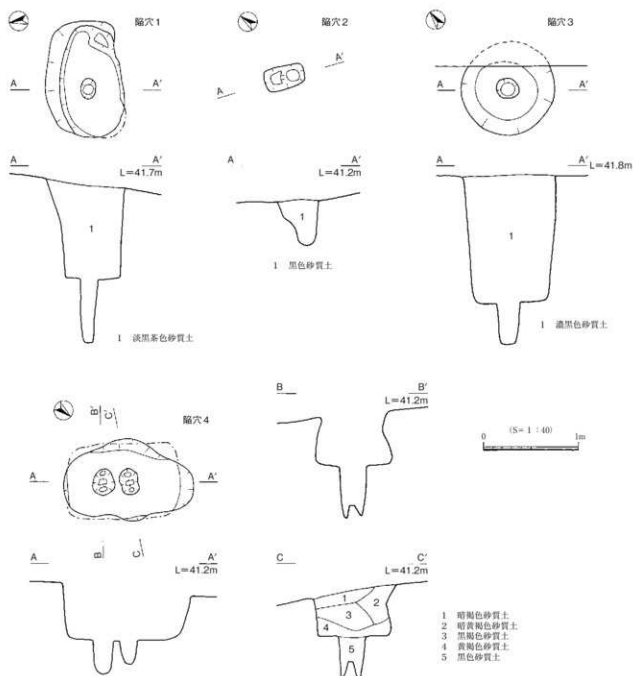
この遺構内からは、遺物は出土しなかった。この土坑の機能については、形態的な特徴から縄文時代に掘削された陥穴と推測される。

陥穴5（第36図）

百塚88号墳の前部、西側の墳丘下から検出した楕円形土坑である。長径1m、短径0.6m、深さ0.85mを測る。底面の中央部には、直径20cm、深さ40cmの小穴が掘られている。この遺構からは、遺物は出土しなかった。



第34図 調査後測量図 (古墳時代以前)



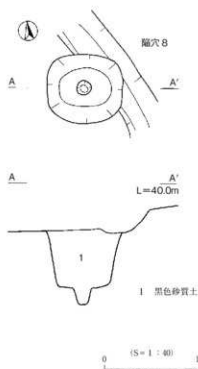
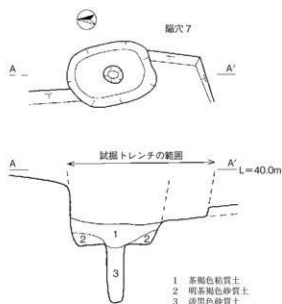
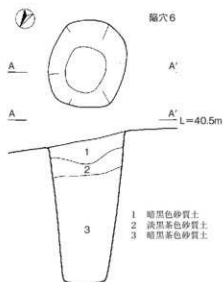
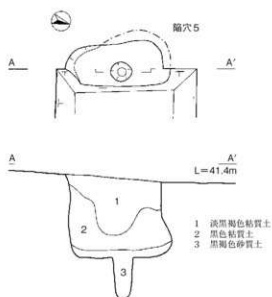
第35図 陥穴1～4 遺構図

陥穴6 (第36図)

百塚88号墳の後円部、第2主体部の下層から検出した円形の土坑である。直径1m、深さ1.3mを測る。土坑の底面中央部には、直径22cm、深さ46cmの小穴が掘られている。

陥穴7 (第36図)

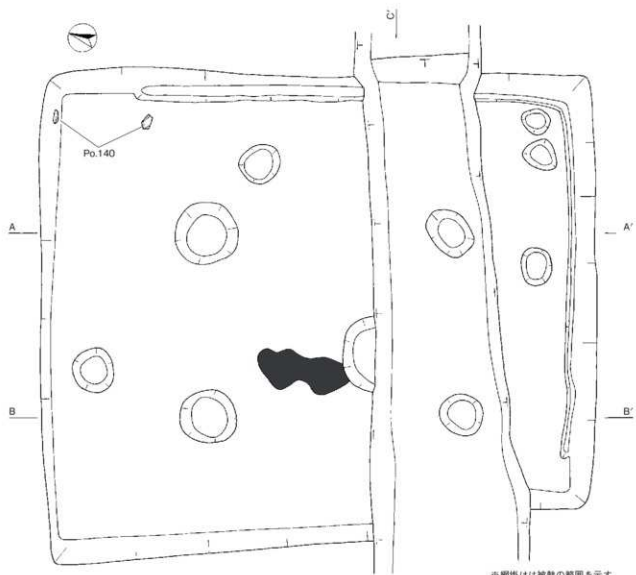
百塚88号墳の第2主体部の羨道部で検出した楕円形の土坑である。検出面の規模は長径90cm、短径65cm、残存している深さ70cmを測る。土坑内の底面中央部には、直径20cm、深さ60cmの小穴が掘られている。この遺構からは、遺物は出土しなかった。



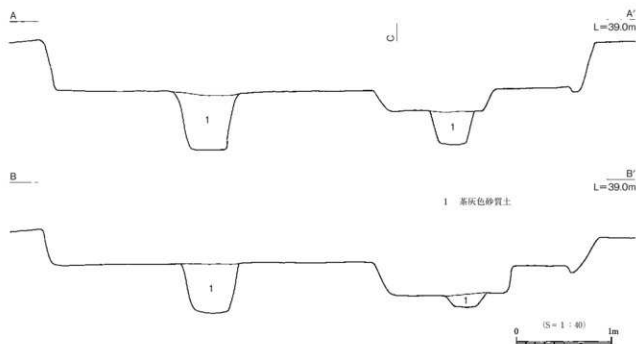
第36図 陥穴5～8 遺構図

陥穴8 (第36図)

百塚88号墳の西側くびれ部付近で検出した、隅丸方形の土坑である。長辺0.8m、短辺0.7m、深さ0.6mで、土坑の底面中央に直径15cm、深さ15cmの小ピットが掘られている。形態的な特徴から陥穴と推測されるが、遺構の上面は第3主体部とテラス状遺構1によって大半が削平されていると考えられる。この遺構からは、遺物は出土しなかった。

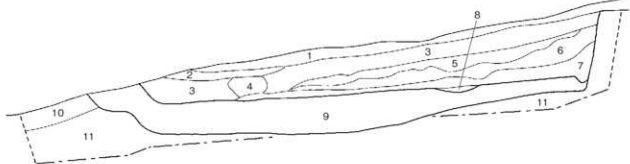


※網掛けは被熱の範囲を示す。



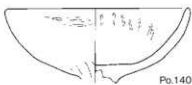
第37図 竪穴建物1 遺構図

C

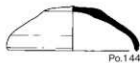
C'
L=39.4m

- | | |
|--------------------|-----------|
| 1 浅黑色砂質土 | 7 黑色粘質土 |
| 2 暗茶色砂質土 | 8 白茶色粘質土 |
| 3 茶褐色砂質土 (ローム混じり) | 9 明黄茶色砂質土 |
| 4 暗灰褐色砂質土 | 10 濃黑色砂質土 |
| 5 浅灰褐色砂質土 (ローム混じり) | 11 地山 |
| 6 黑色砂質土 (ローム混じり) | |

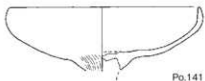
(S=1:40) 1m



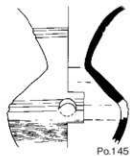
Po.140



Po.144



Po.141



Po.145



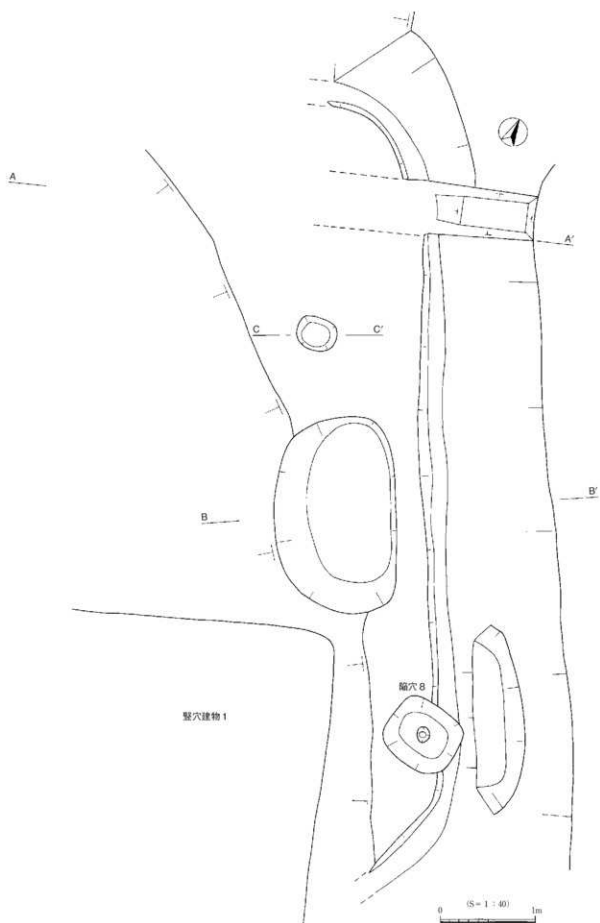
Po.142



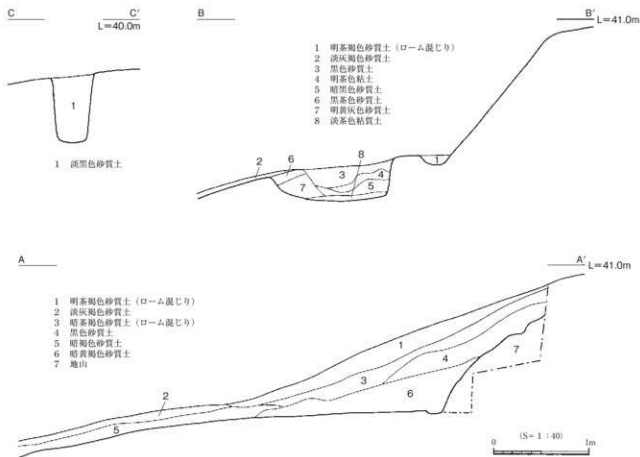
Po.143

(S=1:3) 5cm

第38図 竪穴建物1 遺構・遺物図



第39図 テラス状遺構 1 遺構図①



第40図 テラス状遺構1 遺構図②

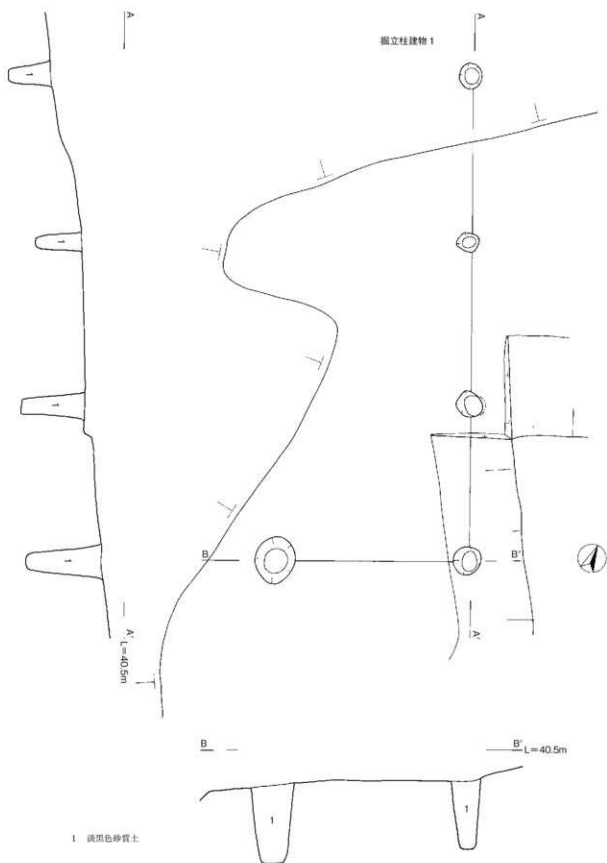
竪穴建物1 (第37・38図)

百塚88号墳の西側斜面下で検出した竪穴建物である。建物の規模は、南北5.9m、東西4.6～5.2m、の台形を呈し、深さ80cmを測る。周壁溝は、幅8～15cm、深さ5cmのものが東側から南側にかけて「L」字形に掘削されている。主柱穴は、直径60cm、深さ50～60cm程のビットが4基あり、柱穴の埋土は茶灰色砂質土のみで、柱痕跡は確認することができなかった。建物の中央やや南寄りには直径80cm、深さ2～3cm程の浅い窪みがあり、この窪みの北側に、炉跡と見られる焼土面が、長さ1m、幅40cmの範囲に残されている。

この建物は、床面の下部に15～40cm程の掘りこみが見られるが、床面は東から西へと大きく傾斜している。竪穴建物の床面としてはあまりにも傾斜が急なため、竪穴建物の切り合いではなく、竪穴建物の範囲を大きく掘削した後に盛土をして整地し、床面を水平に整えた地業と推測される。

ここから出土した遺物は、床面から土師器高坏の坏部 (Po. 140) が出土したほか、上層から土師器、須恵器の破片が出土している。Po. 140は、淡橙褐色を呈する土師器の高坏で、胎土は水簸されたような細かい土を用いている。Po. 141は、口縁部が内彎気味に立ち上がる土師器の高坏。Po. 142は、土師器の壺の口縁部片か。Po. 143は、復元口径24.5cmの土師器の甕。Po. 144は、口径10.2cm、高さ3.5cmの須恵器坏蓋で、天井部の調整はヘラ切り後にナゲ調整を施す。Po. 145は、底部にカキ目調整を施す須恵器の甕である。この須恵器2点は、百塚88号墳の墳丘上から転落してきたものと推測される。

この建物の時期は、床面から出土した土師器高坏から、古墳時代中期後半以降と推測される。



第41図 掘立柱建物1 遺構図

テラス状遺構 1 (第39・40図)

百塚88号墳の前方部西側で検出した平坦地形である。当初は、百塚88号墳の造出と推測していたが、埋土の状況から古墳に先行する時期のテラス状遺構と推測される。

この遺構は西側が後世の重機掘削によって大きく削平されているが、南北9m前後、東西3m以上の規模を持つ隅丸方形の平坦地と推測される。テラス状遺構内には、中央部東寄りの地点で、長径2m、短径1.3m、深さ40cmの大型土坑を1基と、北側で単独のピットを1基検出した。ピットは直径40cm、深さ70cmで、柱痕跡は確認することができなかった。これに対応するピットは他の部分が削平されているため不明だが、建物に伴うものと考えられる。テラス状遺構の東壁側には、幅30cm、深さ10cmの断面「U」字形の溝が掘られている。この遺構からは、遺物は出土しなかった。

この遺構が埋没した時期は、百塚88号墳の下層に位置していることから、古墳時代後期以前と推測される。

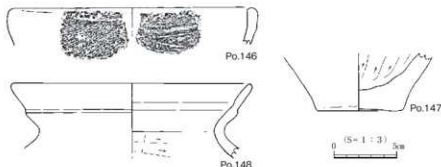
掘立柱建物 1 (第41図)

百塚88号墳の前方部西側、墳丘の盛土下から検出した掘立柱建物である。遺構の大半が削平されているが、5本分の柱穴を確認した。この建物は、梁行2間(4m)×桁行3間(5m)以上の切妻の側柱建物と推測される。柱穴間の距離は、梁行が2m、桁行が1.7mで異なっている。柱穴は大きなもので、直径50cm、深さ80cmを測る。この遺構からは、遺物は出土しなかった。

この遺構が埋没した時期は、百塚88号墳の下層に位置していることから、古墳時代後期以前と推測される。

遺構に伴わない遺物 (第42図)

遺構外から出土した遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器がある。Po.146は、擬縄文を施した浅鉢の破片で、口縁部直下に1条の沈線が巡る。色調は褐色を呈し、胎土は砂粒が多く、雲母が含まれている。縄文時代後期前半頃のものか。Po.147は、弥生土器の壺か甕の底部と見られる。Po.148は、退化した複合口縁の甕である。



第42図 遺構に伴わない遺物図

第4章 総括

第1節 墳丘の構築方法・埋葬施設・土器集中の評価・出土遺物

百塚88号墳は、全長28mの前方後円墳であることが判明した。百塚古墳群内では、94号墳に次ぐ規模である。88号墳のプランについては、前方部の周溝がカーブを描いているため、前方部の両端部がシンメトリーにならない。これは、明確な設計図を持たずに作られたからと考えられるが、このような不整形なプランは、百塚94号墳や別所1号墳のような小規模な前方後円墳ではよく見られる事例である。それから、後円部の円丘を先に造ってから前方部を継ぎ足すようにして前方後円墳を造るやり方は、百塚94号墳や別所1号墳でも見られることから、小規模な前方後円墳の築造方法としては一般的であったと考えられる。

百塚88号墳の墳丘は、土のう積みによって構築されていた。鳥取県内では、古墳時代前期に鳥取市の本高弓ノ木遺跡において、土のうを用いた土堤の構築が確認されている。また、古墳時代後期に築造された晩田山28・29・30号墳でも確認されていることから、本資料は淀江地域における土のう積み工法の普及を示す資料と言える。

今回の調査で土のう積みの痕跡が確認できたのは、墳丘の表土を剥いだ段階で、後円部の墳丘上に黒色土の塊が円周状に連なっている状況を見つけたことによる。百塚88号墳で土のう積みの痕跡が確認できたのは、たまたま茶褐色の土を用いて盛土していた中に、土色の異なる黒色土を詰めた土のうで土留めを行っていたからであった。もし、同種・同色の土を用いて作業をしていれば、発掘調査での検出は困難であっただろう。また、古墳の墳丘断面を観察して土塊状の痕跡があったとしても、平面での分布が確認できなければ、土のう積みを行っている根拠にはならない。このことを念頭に置いて調査を行えば、土のう積み工法を用いて造られた古墳の事例は増加するものと思われる。全国的に見れば、土のう積みによって構築された古墳の事例は近年増加しており、古墳調査の際の重要な視点として認識されている。

百塚88号墳の中心埋葬施設は、後円部に大型の組み合わせ式石棺、前方部に横穴式石室で構成されている。前方後円墳の埋葬施設に組み合わせ式石棺が採用されるのは、小枝山12号墳、大亀塚古墳（南部町）、石州府58号墳、高鼻2号墳（倉吉市）などでも確認されている。また、前方後円墳以外で中心埋葬に大型石棺を採用する事例は、日の岡古墳（南部町）などで確認されており、鳥取県西部地方では一定数存在する葬法である。

前方部の横穴式石室は、淀江平野で一般的に見られる切石の石材を用いたものである。石室の構築については、加工時に生じる細かく破砕された石材がほとんど出土しなかったことから、ある程度の形にまで石材の供給地で加工されたものが、現地まで運ばれて組み立てられたと考えられる。また、石室の規模の割に石材の厚みがあるが、これは石材の脆さをカバーするために厚くしたためである。石材の重さがかかるため、運搬の手間が大変だが、石材の供給地がそれほど遠くない場所にあるのではない。

墳丘の上層で見つかった土器集中は、後円部と前方部の境で見つかったもので、当初は土坑状の掘り込みがあったと考えられる。ここから出土した遺物は、須恵器が主体で土師器は少ない。また、勾



第43図 百塚88号墳 墳丘プラン図

玉と馬具が出土した。須恵器の器種構成は、埋葬儀礼に使われたと思われるものが網羅されており、祭祀に用いられたことは間違いない。今回の事例では、葬送儀礼が終了した後に意図的に破砕し投棄した状況を呈している点が特異である。

前方部と後円部の中間地点に祭祀に用いた土器を置く事例は、百塚94号墳、別所1号墳で確認されている。百塚94号墳は、墳丘の構築過程で盛土の中に大量の須恵器が埋められたとされており、土坑のようなものは確認されていない。別所1号墳は、後円部の墳丘構築が終わり、前方部の構築を始める前に大型の土坑を掘り、その中に大量の完形品の須恵器が埋納されている。これらの事例は、墳丘を構築する際に何らかの儀礼が行われ、その時に使用した須恵器が埋められたと考えられるが、百塚88号墳の場合は墳丘構築がほぼ終了した段階で行われており、須恵器も破砕されているなど相違点があり、今後の検討課題である。

土器集中から出土した遺物は、須恵器の坏、高坏が主体で、壺類がそれに続く。須恵器の年代は、6世紀後半頃のもものが中心であり、若干時期の下る須恵器も含まれている。二つの中心主体部が盗掘されているため、追葬が行われたのか明らかではないが、この古墳が造られた年代は6世紀後半と見られる。

鳥形の装飾が付いた壺は、残念ながら全形が不明だが、台が付くものと思われる。このような装飾須恵器や子持壺は、周辺では百塚90号墳から台付の子持壺が出土しているほか、中西尾6号墳や別所2号墳から坏を付ける子持器台が出土している。見つかった点数は少ないが、百塚90号墳(直径12m)や別所2号墳(直径16m)のような、小規模な円墳からも出土していることから、必ずしも中心的な首長墓などに限定して使用されるものではなかったと考えられる。

百塚88号墳の下層から見つかった、テラス状遺構と掘立柱建物、竪穴建物は、古墳が造られる以前に存在した集落のものと考えられる。遺構に伴う遺物が少ないため、建物が廃絶した時期を明らかにすることができなかったが、テラス状遺構と掘立柱建物は、遺構面のすぐ上から古墳の盛土が始まっており、ほとんど埋もれていない状況であった。古墳が造られる直前まで建物が建っていた可能性もあり、古墳の造営によって撤去されたとすれば、古墳と集落の関係を考える上で興味深い資料となる。

今回調査を行った百塚88号墳は、残念ながら中心の埋葬施設が盗掘を受けているため、副葬品などの全容がつかめなかったが、墳丘構築の方法や大量の須恵器を用いた祭祀の様相など、興味深い事例が明らかとなった。

表1 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土土器観察表(残存・復元値は()で示す)

押図番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm)			色調	調整		備考
					口径	底径	器高		内面	外面、口縁部	
10	Po. 1	第1主体部	攪乱土	須恵器・坏蓋	(12.8)		3.9	暗灰色	ナデ	ヘラケズリ後ナデ	天井部に「メ」にヘラ記号
10	Po. 2	第1主体部	裏込め	須恵器・坏蓋	(14.6)		(3.3)	灰色	ナデ	ナデ	
10	Po. 3	第1主体部	攪乱土	須恵器・坏身	(12.0)		3.6	灰色	ナデ	ナデ、ヘラケズリ後ナデ	
14	Po. 4	第3主体部	棺内	須恵器・坏蓋	12.8		3.8	淡灰色	ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	転用枕
14	Po. 5	第3主体部	棺内	須恵器・坏身	11.4		3.8	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	転用枕
16	Po. 6	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(14.6)		4.0	淡茶灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 7	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	14.0		3.8	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 8	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	14.4		3.9	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 9	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	14.4		3.8	暗灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 10	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	13.8		4.0	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 11	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	13.7		4.2	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 12	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	13.6		4.1	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 13	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	13.4		3.5	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	天井部の中心は未調整
16	Po. 14	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(13.6)		4.0	淡灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 15	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(13.2)		(3.6)	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 16	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(13.4)		(4.0)	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 17	土器集中1	表土	須恵器・坏蓋	(12.6)		(3.5)	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、回転ヘラケズリ	
16	Po. 18	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(12.2)		4.0	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、回転ヘラケズリ	
16	Po. 19	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(12.8)		3.8	灰色	ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	ハケ状工具の擦痕有り
16	Po. 20	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	13.8		4.2	暗灰色	ナデ	ナデ、カキ目	
16	Po. 21	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(13.4)		(3.1)	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 22	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(12.0)		4.1	灰色	ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	
16	Po. 23	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(12.0)		4.2	灰色	ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	ハケ状工具の擦痕有り
16	Po. 24	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋	(11.0)		3.7	灰色	ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	天井部に「メ」のヘラ記号
16	Po. 25	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	(16.8)		5.6	淡赤灰色	ナデ	ナデ、カキ目	
16	Po. 26	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	16.5		5.4	淡灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 27	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	(15.8)		5.4	淡灰色	ナデ	ナデ	
16	Po. 28	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	(15.8)		(4.8)	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Po. 29	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	13.4		4.7	暗灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	

表2 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土土器観察表(残存・復元値は()で示す)

採掘番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm)			色調	調整		備考
					口径	底径	器高		内面	外面・口縁部	
16	Pa.30	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	14.0		4.4	暗灰色	ナデ	ナデ、カキ目	
16	Pa.31	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	14.0		4.5	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ	
16	Pa.32	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	14.0		4.7	暗灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Pa.33	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	13.8		4.7	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Pa.34	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	13.5		4.4	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
16	Pa.35	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏蓋	(12.8)		4.1	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.36	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	12.8		3.9	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.37	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	12.8		(3.8)	淡赤灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.38	墳丘ベルト	埋土中	須恵器・坏身	(12.2)		3.8	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.39	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	(12.4)		(3.8)	淡灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.40	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	12.8		4.1	淡灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.41	土器集中1	表土	須恵器・坏身	11.0		4.4	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.42	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	(11.6)		4.0	淡茶灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.43	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	(11.4)		3.8	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.44	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	(11.2)		3.8	灰色	ナデ	ナデ、ヘラ切り後ナデ	
17	Pa.45	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	(10.2)		3.5	灰色	ナデ	ナデ、回転ヘラケズリ	
17	Pa.46	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身	(9.8)		(3.7)	灰色	ナデ	ナデ	
18	Pa.47	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	14.6	16.5	21.2	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
18	Pa.48	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	13.7	17.4	20.8	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
18	Pa.49	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	14.6	17.7	20.2	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、カキ目	
18	Pa.50	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(14.7)	17.0	19.6	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
18	Pa.51	土器集中1	表土	須恵器・高坏	(14.8)	17.2	18.1	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
18	Pa.52	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	14.2	18.7	18.0	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
19	Pa.53	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(13.5)	(16.7)	(18.0)	暗灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
19	Pa.54	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	14.4	16.9	21.8	淡灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
19	Pa.55	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(15.2)	17.8	19.8	淡灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
19	Pa.56	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	15.3	17.0	19.4	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
19	Pa.57	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	13.8	16.7	19.2	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
19	Pa.58	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏		(15.7)	(12.8)	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
20	Pa.59	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋高坏	12.6	13.2	18.9	灰色	ナデ	ナデ、刺突文	二方向に方形二段透かし
20	Pa.60	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋高坏	(11.8)	(12.4)	18.0	淡茶灰色	ナデ	ナデ、刺突文	二方向に方形二段透かし
20	Pa.61	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋高坏	(10.0)	(12.5)	18.3	灰色	ナデ	ナデ、刺突文	三方向に方形二段透かし、脚部に如壁付着

表3 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土土器観察表(残存・復元値は()で示す)

押図 番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm)			色調	調整		備考
					口径	底径	器高		内面	外面・口縁部	
20	Pa.62	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋 高坏	(12.5)	(14.2)	14.3	淡白茶色	ナデ	ナデ、沈線文	三方向に方 形二段透か し、見込みに 「×」の ヘラ記号
20	Pa.63	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(11.8)	(11.9)	12.5	暗灰色	ナデ	ナデ	三方向に方 形透かし
20	Pa.64	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(13.1)	(10.3)	10.8	灰色	ナデ	ナデ	三方向に三 角形透かし
20	Pa.65	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	12.6	11.5	11.1	暗灰色	ナデ	ナデ	三方向に方 形透かし
20	Pa.66	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	12.2	11.9	11.2	暗灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
20	Pa.67	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	12.6	11.0	11.1	灰色	ナデ	ナデ、カキ目	
20	Pa.68	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(13.3)	(11.7)	11.6	灰色	ナデ	ナデ、カキ目	
20	Pa.69	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.7)	11.3	10.0	灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
20	Pa.70	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(15.2)	(11.5)	10.9	灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
20	Pa.71	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(13.4)	(10.7)	9.2	灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.72	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	12.4	11.0	10.6	暗灰色	ナデ	ナデ	二方向に三 角形透かし
21	Pa.73	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.5)	(11.2)	11.3	灰色	ナデ	ナデ	三方向に方 形透かし
21	Pa.74	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.4)	(10.1)	9.5	灰色	ナデ	ナデ	二方向に方 形透かし
21	Pa.75	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(13.1)	(8.9)	10.2	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
21	Pa.76	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.5)	(10.8)	8.8	灰色	ナデ	ナデ	
21	Pa.77	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(11.8)	(10.5)	10.9	灰色	ナデ	ナデ	
21	Pa.78	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	12.2	12.5	11.0	暗灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.79	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.8)	(11.4)	11.3	灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.80	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	13.4	10.7	10.5	淡灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.81	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.4)	(10.4)	11.3	灰色	ナデ	ナデ	
21	Pa.82	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(13.0)	(10.3)	9.9	灰色	ナデ	ナデ	
21	Pa.83	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.3)	(11.6)	11.1	灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.84	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏	(12.3)	11.1	9.9	暗灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.85	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏		(10.8)	(6.8)	灰色	ナデ	ナデ	透かし無し
21	Pa.86	土器集中1	埋土中	須恵器・高坏		(10.8)	(6.1)	灰色	ナデ	ナデ	
22	Pa.87	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋 高坏	14.0	10.5	9.3	灰色	ナデ	ナデ	二方向に三 角形透かし
22	Pa.88	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋 高坏		(11.8)	(10.0)	白灰色	ナデ	ナデ	
22	Pa.89	土器集中1	埋土中	須恵器・台付 鉢	(10.3)	9.4	10.6	灰色	ナデ	ナデ、カキ目、 沈線文	二方向に方 形透かし
22	Pa.90	土器集中1	埋土中	須恵器・台付 鉢	(11.1)	(8.1)	7.5	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	方形透かし 有り
22	Pa.91	土器集中1	埋土中	須恵器・無蓋 高坏	8.9		(4.4)	灰色	ナデ	ナデ	
22	Pa.92	土器集中1	埋土中	土師器・高坏	(15.2)	8.1	10.2	橙褐色	ナデ	ナデ	
22	Pa.93	土器集中1	表土	須恵器・蓋	(6.2)		(1.3)	灰色	ナデ	ナデ	
22	Pa.94	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身 か	(10.0)		(4.8)	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、 底部回転ヘラ ケズリ	
22	Pa.95	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身 か	(10.2)		3.8	灰色	ナデ	ナデ、底部回 転ヘラ切り後 ナデ	
22	Pa.96	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身 か	(10.2)		4.0	灰色	ナデ	ナデ、底部回 転ヘラ切り後 ナデ	
22	Pa.97	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身 か	(13.2)		5.4	暗灰色	ナデ	ナデ、底部回 転ヘラ切り後 ナデ	

表4 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土土器観察表(残存・復元値は()で示す)

採掘番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm)			色調	調整		備考
					口径	底径	器高		内面	外面・口縁部	
22	Pa. 98	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身か	9.3		4.1	灰色	ナデ	ナデ、底部回転ヘラケズリ	
22	Pa. 99	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身か	(10.4)		3.2	淡灰色	ナデ	ナデ、底部回転ヘラケズリ	
22	Pa. 100	土器集中1	埋土中	須恵器・壺蓋か	(9.7)		3.4	灰色	ナデ	ナデ、底部ヘラ切後ナデ	
22	Pa. 101	土器集中1	埋土中	須恵器・坏身		8.0	(2.0)	灰色	ナデ	糸切り後ナデ	
22	Pa. 102	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋			4.5	灰色	ナデ	ナデ、底部回転ヘラケズリ	焼け歪み
22	Pa. 103	土器集中1	埋土中	須恵器・坏蓋			2.9	淡灰色	ナデ	ナデ、底部回転ヘラケズリ	焼け歪み
23	Pa. 104	土器集中1	埋土中	須恵器・台付壺		15.6	(23.9)	灰色	ナデ	刺突文、沈線文、ナデ	
23	Pa. 105	土器集中1	埋土中	須恵器・長頸壺	(7.1)		15.0	暗灰色	ナデ	ナデ、沈線文、底部回転ヘラケズリ	
23	Pa. 106	土器集中1	埋土中	須恵器・壺	(8.2)		(7.8)	灰色	ナデ	ナデ	肩部に自然軸
23	Pa. 107	土器集中1	埋土中	須恵器・壺			(11.8)	灰色	ナデ	ナデ、底部回転ヘラケズリ	
23	Pa. 108	土器集中1	埋土中	須恵器・壺	15.5		30.0	灰色	当て具、ナデ	タタキ、刺突文、沈線文	
23	Pa. 109	土器集中1	埋土中	須恵器・壺			(24.7)	暗灰色	当て具、ナデ	タタキ	
24	Pa. 110	土器集中1	埋土中	須恵器・甕	(18.2)		(20.5)	灰色	当て具、ナデ	タタキ、3条沈線	内面は淡赤灰色を呈する。
24	Pa. 111	土器集中1	埋土中	須恵器・壺	(13.6)		20.8	灰色	ナデ	カキ目、底部回転ヘラケズリ	
24	Pa. 112	土器集中1	埋土中	須恵器・短頸壺	10.1		24.6	灰色	当て具、ナデ	刺突文、沈線文、タタキ	
24	Pa. 113	土器集中1	埋土中	須恵器・短頸壺	(9.4)		27.1	灰色	当て具、ナデ	タタキ	
25	Pa. 114	土器集中1	埋土中	須恵器・短頸壺	(6.4)		8.3	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、底部回転ヘラケズリ	
25	Pa. 115	土器集中1	埋土中	須恵器・短頸壺	(6.6)		6.7	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、底部回転ヘラケズリ	
25	Pa. 116	土器集中1	埋土中	須恵器・甕	(11.9)	4.2	13.6	灰色	ナデ	ナデ、底部回転ヘラケズリ	底部に「×」のヘラ記号
25	Pa. 117	土器集中1	埋土中	須恵器・甕		4.9	(8.0)	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、底部回転ヘラケズリ	
25	Pa. 118	土器集中1	埋土中	須恵器・提瓶か	(6.8)		(5.7)	灰色	ナデ	ナデ	
25	Pa. 119	土器集中1	埋土中	須恵器・提瓶か	(8.6)		(5.6)	灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
25	Pa. 120	土器集中1	埋土中	須恵器・提瓶	(7.6)		(19.5)	灰色	ナデ	ナデ、沈線文、回転ヘラケズリ	
25	Pa. 121	土器集中1	埋土中	須恵器・提瓶			(12.8)	暗灰色	ナデ	ナデ、カキ目、回転ヘラケズリ	
25	Pa. 122	土器集中1	埋土中	須恵器・提瓶			(16.3)	淡灰色	ナデ	ナデ、沈線文	
25	Pa. 123	土器集中1	埋土中	須恵器・提瓶			(8.2)	灰色	ナデ	ナデ	
26	Pa. 124	土器集中1	埋土中	須恵器・横瓶	(18.6)		(35.1)	青灰色	当て具、ナデ	タタキ	
26	Pa. 125	土器集中1	埋土中	須恵器・横瓶	(13.3)		(27.7)	暗赤灰色	当て具	タタキ	
27	Pa. 126	土器集中1	埋土中	須恵器・横瓶	(9.2)		(24.0)	淡赤灰色	当て具	タタキ	
27	Pa. 127	土器集中1	埋土中	須恵器・甕	(21.0)		41.0	青灰色	当て具	タタキ	

表5 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土土器観察表(残存・復元値は()で示す)

挿図番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm)			色調	調整		備考
					口径	底径	器高		内面	外面・口縁部	
28	Pa. 128	土器集中1	埋土中	須恵器・壺	21.0		(38.3)	暗緑灰色	当て具	タタキ	外面に自然釉
28	Pa. 129	土器集中1	埋土中	須恵器・甕	(18.6)		(9.6)	灰色	当て具	自然釉付着	
28	Pa. 130	土器集中1	埋土中	須恵器・甕	(20.5)		(5.8)	灰色	ナデ	ナデ	
28	Pa. 131	土器集中1	埋土中	裝飾須恵器・壺	(13.4)		(18.0)	暗灰色	当て具、ナデ	ナデ、刺突文、沈線文	鳥形裝飾
28	Pa. 132	土器集中1	埋土中	須恵器・器台か		(19.0)	(11.3)	淡灰色	ナデ	ナデ、刺突文、沈線文	二段に三角透かし
29	Pa. 133	土器集中1	埋土中	裝飾須恵器			(4.3)	暗灰色	ナデ	ナデ	鳥形裝飾
29	Pa. 134	土器集中1	埋土中	裝飾須恵器			(3.8)	暗灰色	ナデ	ナデ	鳥形裝飾
29	Pa. 135	土器集中1	埋土中	土師器・てづね	3.0		2.2	褐色	ナデ	ナデ	
29	Pa. 136	土器集中1	表土	土師器・てづね	2.9		2.4	淡茶灰色	ナデ	ナデ	
30	Pa. 137	周溝	埋土中	土師器・甕	(16.7)		(5.7)	淡橙褐色	ナデ、ケズリ	ハケ、ナデ	
30	Pa. 138	周溝	埋土中	須恵器・高坏蓋	(16.2)		(4.8)	灰色	ナデ	ナデ	
30	Pa. 139	周溝	埋土中	須恵器・坏蓋			(2.0)	灰色	ナデ	回転ヘラケズリ	
38	Pa. 140	竪穴建物1	床面	土師器・高坏	(14.3)		(5.8)	淡橙褐色	風化	ナデ	
38	Pa. 141	竪穴建物1	埋土中	土師器・高坏	(15.1)		(4.9)	淡橙褐色	ナデ	ハケ、ナデ	
38	Pa. 142	竪穴建物1	埋土中	土師器・壺	(18.4)		(5.7)	橙褐色	ナデ	風化	
38	Pa. 143	竪穴建物1	上層	土師器・壺	(24.5)		(6.2)	淡茶灰色	ナデ、ケズリ	ナデ	
38	Pa. 144	竪穴建物1	上層	須恵器・坏蓋	(10.2)		(3.5)	灰色	ナデ	ヘラ切り後ナデ	
38	Pa. 145	竪穴建物1	上層	須恵器・甕			(11.1)	灰色	ナデ	ナデ、カキ目、沈線文	
42	Pa. 146	B4	表土	縄文土器・浅鉢			(2.9)	暗褐色	ナデ	掘縄文	
42	Pa. 147	B4	攪乱	弥生土器・底部		6.8	(4.5)	茶灰色	ケズリ	風化	
42	Pa. 148	B4	表土	土師器・甕	(18.7)		(5.9)	淡茶灰色	ナデ	ナデ	外面に煤付着

表6 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土土製品観察表

挿図番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm・g)				石材	備考
					最大長	最大幅	最大厚	重量		
29	S. 1	第3主体部	表土	勾玉	3.1	1.3	0.7	7.5	水晶	
29	S. 2	土器集中1	検出中	勾玉	3.1	1.4	0.8	7.5	碧玉	
29	S. 3	第3主体部	検出中	打製石鏃	1.7	1.6	0.4	1.0	黒曜石	

表7 百塚88号墳・百塚第7遺跡 出土金属製品観察表(残存値は()で示す)

挿図番号	遺物番号	地区・遺構	層位	種別・器種	法量 (cm)			備考
					最大長	最大幅	最大厚	
10	M. 1	第1主体部	攪乱土	鉄製・鏃	(5.3)	(3.5)	0.6	
29	M. 2	土器集中1	表土	青銅製・耳環	2.9	3.3	0.8	
30	M. 3	土器集中1	埋土	鉄製・馬具	(12.8)	(10.6)	(3.9)	
30	M. 4	土器集中1	埋土	鉄製・馬具	6.5	(4.2)	1.7	

写真図版



1. 百塚88号墳調査前遠景（南西より）



2. 百塚88号墳調査前全景（上空より）



1. 百塚88号墳調査後全景（上空より）



1. 百塚88号墳調査後遠景（北西より）



2. 百塚88号墳調査後遠景（南西より）



1. 第1主体部、
土器集中1 (北西より)



2. 第1主体部、
土器集中1 (上空より)



3. 第1主体部
検出 (南東より)

1. 第1主体部
北側断面（北東より）



2. 第1主体部
中央断面（南西より）



3. 第1主体部
南側断面（南西より）





1. 第1主体部完掘（北東より）



2. 第1主体部完掘（南より）

1. 第1主体部
南西側側石（北東より）



2. 第1主体部
北西側小口石（南東より）



3. 第1主体部
北東側側石（南西より）





1. 第1主体部
南東側小口部（西より）



2. 第1主体部
北西側裏込（西より）



3. 第1主体部
北西側裏込（北西より）

1. 第2主体部
検出 (西より)



2. 第2主体部
東西断面 (南より)



3. 第2主体部
調査風景 (東より)





1. 第2主体部
框石検出 (西より)



2. 第2主体部
玄門部完掘 (西より)

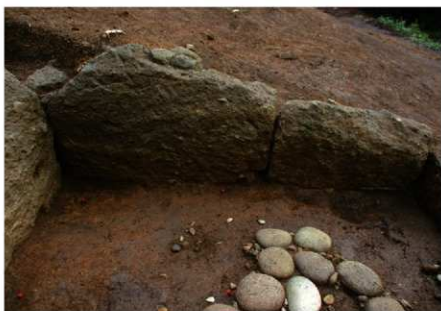


3. 第2主体部
框石 (西より)

1. 第2主体部
北側側石（南より）



2. 第2主体部
南側側石（北より）



3. 第2主体部北側玄門
組み合わせ部（南より）





1. 第2主体部南側玄門
組み合わせ部（西より）



2. 第2主体部
玄室床面礫（西より）



3. 第2主体部
羨道部断割（西より）

1. 第2主体部
奥壁裏込（南より）



2. 第2主体部
北側側石裏込（西より）



3. 第2主体部北側側石
裏側の加工痕（北より）





1. 第2主体部北側
側石裏込除去（西より）



2. 第2主体部
玄室床断割（北より）



3. 第2主体部
奥壁除去（西より）

1. 第3主体部
蓋石検出 (西より)



2. 第3主体部勾玉 (S. 1)
出土状況 (西より)



3. 第3主体部
蓋石除去 (西より)





1. 第3主体部
完掘（北西より）



2. 第3主体部
完掘（南西より）



3. 第3主体部
断割（北西より）

1. 土壇1
断面（東より）



2. 土壇1
完掘（東より）



3. 土器集中1
検出状況（北東より）





1. 土器集中1
出土状況（北西より）



2. 土器集中1 勾玉 (S. 2)
出土状況（南東より）



3. 土器集中1 鉄製品 (M. 3、
M. 4) 出土状況（北西よ
り）

1. 土器集中1
下層完掘 (西より)



2. 百塚88号墳後円部
西側墳丘断面 (南東より)



3. 百塚88号墳後円部
土のう痕跡検出 (南より)





1. 百塚88号墳後円部
土のう痕（南より）



2. 百塚88号墳後円部
南側墳丘断面（南西より）



3. 百塚88号墳後円部
南側墳丘断面（西より）

1. 百塚88号墳後円部
南側墳丘土のう部分
(西より)



2. 百塚88号墳後円部
東側墳丘断面 (南より)



3. 百塚88号墳後円部
東側墳丘土のう部分
(南東より)





1. 百塚88号墳前方面
南側墳丘断面（北東より）



2. 百塚88号墳前方面
北側墳丘断面（東より）



3. 第2主体部
下層墳丘断面（西より）

1. 百塚88号墳前方部
北側墳丘断面（西より）



2. 百塚88号墳前方部
北側墳丘断面（西より）



3. 百塚88号墳前方部
東側墳丘断面（北より）





1. 百塚88号墳後円部
南側周溝断面（南西より）



2. 百塚88号墳前方部
東側周溝断面（南東より）



3. 百塚88号墳前方部
北側周溝断面（南西より）

1. 溝1検出
(南東より)



2. 溝1完掘
(北西より)



3. 溝1完掘
(北東より)





1. 石棺墓1
検出 (西より)



2. 石棺墓1
完掘 (西より)



3. 石棺墓1
完掘 (南東より)

1. 石棺墓1
掘形完掘 (南東より)



2. 竪穴建物1とテラス状遺構1の切り合い (南東より)



3. 竪穴建物1
断面 (東より)





1. 竪穴建物1
完掘（東より）



2. テラス状遺構1
完掘（西より）



3. テラス状遺構1、中央ピット
完掘（北西より）

1. 掘立柱建物1
完掘（北西より）



2. 陥穴1
完掘（北西より）



3. 陥穴2底面ビット
完掘（西より）





1. 陥穴3
完掘（西より）



2. 陥穴4
断面（北より）



3. 陥穴4
完掘（東より）

1. 陥穴4
底面ビット（東より）



2. 陥穴5
断面（西より）



3. 陥穴5
完掘（西より）





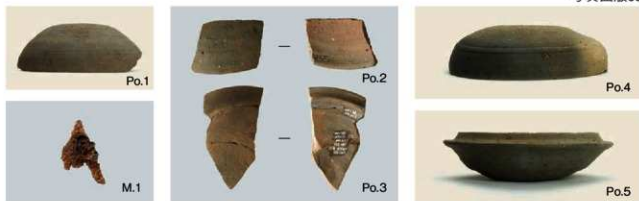
1. 陥穴6
完掘（北より）



2. 陥穴7
断面（西より）



3. 陥穴7
完掘（西より）

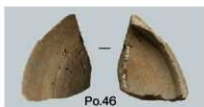


1. 第2・第3主体部出土遺物



2. 土器集中1出土遺物

(S=1/3)









1. 土器集中1出土遺物

(S=1/3)



1. 土器集中1出土遺物

(S=1/3)



1. 土器集中1出土遺物





1. 土器集中1出土遺物



1. 土器集中1出土遺物



1. 土器集中1出土遺物

(S=1/3)



1. 土器集中1出土遺物

(S= 1/3)



Po.128



Po.131



Po.129



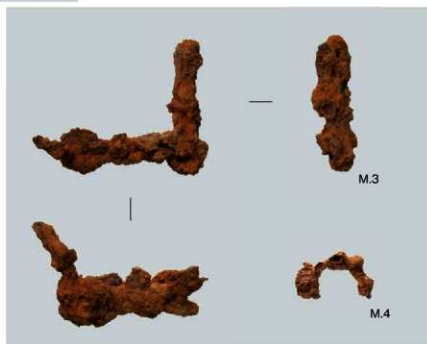
Po.130



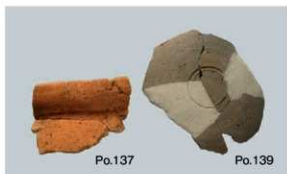
Po.132

1. 土器集中1出土遺物

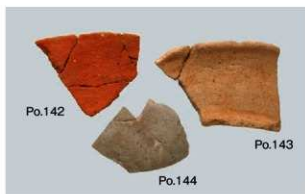
(S=1/3)



1. 土器集中1・第3主体部出土遺物
(M.3・4のみS=1/3、それ以外は全てS=1/1)



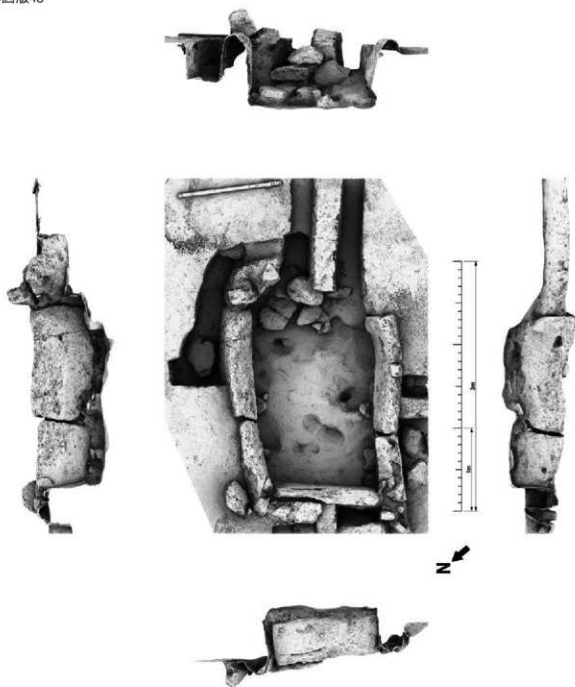
1. 周溝内出土遺物



2. 豎穴建物1出土遺物



3. 遺構外出土遺物



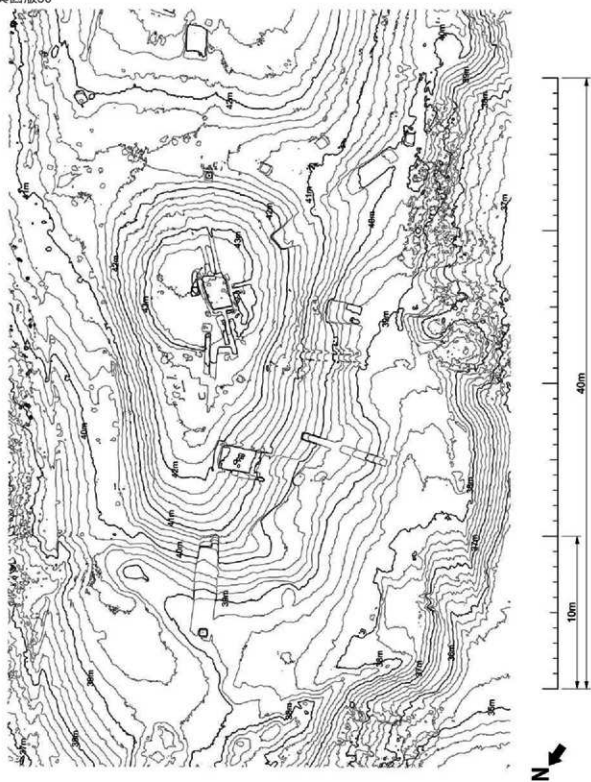
1. 第1主体部オルソ画像

合名会社アバラティス提供



1. 第2主体部オルソ画像

合名会社アバラティス提供



1. 百塚88号墳墳丘オルソ画像

合名会社アバラティス提供

報告書抄録

ふりがな	ひゃくつか88ごうふん・ひゃくつかだい7いせき							
書名	百塚88号墳・百塚第7遺跡							
副書名	鳥取県環境管理事業センター産業廃棄物管理型最終処分場事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	24							
編著者名	一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室							
編集機関	一般財団法人 米子市文化財団 埋蔵文化財調査室							
所在地	〒683-0011 鳥取県米子市福市281番地 TEL・FAX 0859-26-0455 eメールアドレス yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
百塚88号墳・ 百塚第7遺跡	鳥取県米子市 淀江町小波	31401	336 360	35度 25分 49秒	133度 25分 11秒	令和2年 6月24日 ～ 令和2年 11月30日	1,374㎡	鳥取県環境管理事業センター産業廃棄物管理型最終処分場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
百塚88号墳・ 百塚第7遺跡	古墳・集 落跡	縄文時代 古墳時代	陥穴、竪穴建物、テラス 状遺構、掘立柱建物、前 方後円墳、石棺、横穴式 石室、土器集中		縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、勾 玉、鉄製品、耳環、 石鏃		装飾須恵器 が出土。土 のう積み工 法による墳 丘構築。	
要 約								
<p>百塚88号墳は、全長28mの前方後円墳である。埋葬施設は後円部に大型石棺、前方部に横穴式石室を持ち、墳丘外にも小型の石棺がある。墳丘の構築方法は、後円部の石棺を組み立てた後、盛土を行っている。盛土の際には、墳丘の外縁部に土のう袋を積み上げて土砂の流出を防いでいた。後円部と前方部の間には土器集中があり、埋葬儀礼が行われた後、使用した土器を破砕してこの地点に投棄したものと考えられる。</p> <p>百塚88号墳の下層には、縄文時代の陥穴や古墳時代中期の竪穴建物、掘立柱建物、テラス状遺構があり、各時代においても土地利用がなされていたことが窺える。</p>								

一般財団法人米子市文化財団埋蔵文化財発掘調査報告書24

鳥取県米子市

百塚88号墳・百塚第7遺跡

2022年3月

編集・発行 一般財団法人 米子市文化財団

〒683-0011 鳥取県米子市福市281番地

TEL 0859-26-0455

印刷 勝美印刷株式会社